

令和7年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

令和7年9月8日（月曜日）

議事日程第3号

令和7年9月8日（月曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 18名

〈出席議員〉 18名

1番	池田七菜君	2番	松田徳彦君
3番	加藤康太郎君	4番	渡辺栄一君
5番	関原奈津美君	6番	利根川正君
7番	田中立一君	8番	和泉克彦君
9番	近藤新二君	10番	田原洋子君
11番	宮島宏君	12番	東野恭行君
13番	阿部裕和君	14番	古畑浩一君
15番	田原実君	16番	中村実君
17番	保坂悟君	18番	松尾徹郎君

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長	久保田郁夫君	副市長	井川賢一君
総務部長	嶋田猛君	市民部長	山口和美君

産 業 部 長	猪 又 悦 朗 君	総 務 課 長	磯 貝 恭 子 君
企 画 定 住 課 長	大 西 学 君	財 政 課 長	塚 田 修 身 君
能 生 事 務 所 長	高 野 一 夫 君	青 海 事 務 所 長	仲 谷 充 史 君
市 民 課 長	小 竹 貴 志 君	環 境 生 活 課 長	木 島 美 和 子 君
福 祉 事 務 所 長	山 岸 千 奈 美 君	健 康 増 進 課 長	林 壮 一 君
商 工 観 光 課 長	山 崎 和 俊 君	農 林 水 産 課 長	星 野 剛 正 君
建 設 課 長	長 崎 英 昭 君	都 市 政 策 課 長	内 山 俊 洋 君
会 計 管 理 者	山 田 康 弘 君	ガ ス 水 道 局 長	陶 山 智 君
会 計 課 長 兼 務			
消 防 長	竹 田 健 一 君	消 防 次 長	中 村 淳 一 君
教 育 長	鶴 本 修 一 君	教 育 次 長	山 本 喜 八 郎 君
こ だ も 課 長	室 橋 淳 次 君	こ だ も 教 育 課 長	小 川 豊 雄 君
生 涯 学 習 課 長	川 合 三 喜 八 君	文 化 振 興 課 長	嵐 口 守 君
監 査 委 員 事 務 局 長	川 原 隆 行 君		

〈事務局出席職員〉

局 長	磯 貝 直 君	次 長	上 野 一 樹 君
主 査	遠 田 佳 奈 子 君		

〈午前１０時００分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（古畑浩一君）

日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、２番、松田徳彦議員、１０番、田原洋子議員、両名を指名いたします。

日程第２．一般質問

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

5日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。〔12番 東野恭行君登壇〕

○12番（東野恭行君）

おはようございます。

みらい創造クラブの東野恭行です。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、地域医療の現状と課題について。

令和7年8月、糸魚川市市民部健康増進課により「地域医療の現状と課題」のタイトルで開催された市民説明会の資料では、人口減少が進むとともに、医療スタッフの確保が困難になっていくことが想定される本市の状況を考えれば、地域に密着した社会基盤としての医療を確実に維持するために「地域医療構想」を早期に取りまとめ、実行することが必須であるとしています。今後の糸魚川市の医療についての方向性と取組について伺います。

(1) 今後、新潟県が掲げる「地域医療構想」が構築され、実行に向けた取組がされていくと考えますが、構想開始時期の見通しについて伺います。

(2) 将来の医療ニーズに対応した医療体制をつくるため、医療機関の役割分担や連携の仕組みを構築した地域医療構想がまとまり、実行していくことで、公的病院（糸魚川総合病院）の経営は改善され、赤字が解消されていくものとお考えか伺います。

(3) 新潟県及び厚生連病院所在市による財政支援がなされ、厚生連は当初想定された2025年度の運転資金枯渇を回避できるめどが立ったとしているが、2025年以降も新潟県による支援は見込めるのか伺います。

(4) 公的団体の運営による「公的病院」と、都道府県・市町村などの自治体が運営する「公立病院」の違いについて伺います。

(5) 地域医療の存続に向けて、久保田市長自らが順天堂大学へ何度も訪問されているようですが、それら「自ら汗をかく」活動が、今後、糸魚川市の医療にとって、どのような影響を期待できるのか伺います。

2、糸魚川市における観光振興に向けた取組について。

糸魚川市には、ジオサイトをはじめとする多くの観光資源があり、令和5年度の観光入込客総数は190万9,550人と多くの方が糸魚川市に訪れています。「稼げる観光」を意識するならば、施設の更新などに積極的に投資することが望ましいですが、糸魚川市の観光振興に向けたビジョンを伺います。

(1) 令和7年7月15日、妙高高原地域の大規模リゾート開発について、情報を共有する協議会が初めて開催されました。その協議会は、外資系の不動産投資運用会社ペイシャンスキャ

ピタルグループ「PCG」のほか、上越地域の3市や佐渡市、鉄道やバスの交通事業者など11の団体で構成されていますが、今後の糸魚川市の連携について、考えを伺います。

(2) マリンドリーム能生や親不知ピアパークのリニューアル時期の予定を伺います。松本糸魚川連絡道路設置と併せて、旧糸魚川市での「道の駅設置」に向けた構想はあるか伺います。

(3) 糸魚川市観光協会オフィシャルショップ（オンラインショップ）にて販売されているグッズの売行きはいかがですか。入館者の多いフォッサマグナミュージアムや観光協会の窓口での販売はされているのか伺います。

(4) 糸魚川市が考える新幹線駅（糸魚川駅）周辺のまちづくりについて伺います。

以上で1回目の質問を終了させていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたしたいと思います。

1番目の1点目につきましては、現在、実現に向けた協議を進めている段階であり、まだ具体的な時期はお示しできませんが、県を中心に早期実現を目指し、取組を進めております。

2点目につきましては、地域医療構想の実現は、病院運営の効率化による経営改善につながると考えておりますが、赤字解消には、診療報酬の見直し、病院のさらなる経営改革なども必要になると考えております。

3点目につきましては、JA新潟厚生連の経営改革を前提に、県が判断することとなりますが、厚生連病院所在市連携の下、県への働きかけを一層強めてまいります。

4点目につきましては、求められる医療機能に差はなく、国の財政支援制度において違いが生じております。

5点目につきましては、地域医療の実情を伝え、医師派遣に対する協力を求めるなど、安定した医療体制の確保につながるものと捉えておりますが、富山大学との関係にも配慮しつつ、多様な連携を築いてまいりたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、広域観光ルートの確立を検討する部会に参加しており、開発の進捗に合わせて柔軟に対応してまいります。

2点目につきましては、2つの道の駅の更新は未定であります。

また、現時点では、新たな道の駅設置の構想には至っておりません。

3点目につきましては、「石の採取キット」などのオリジナルグッズの売行きは好調であり、フォッサマグナミュージアムや観光協会窓口で販売しております。

4点目につきましては、北陸新幹線等の活用によるにぎわいの創出に努めるとともに、宿場町としての歴史を引き出しながら交流人口の増加を目指してまいります。

以上ご質問にお答えいたしましたけども、再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

2回目の質問、よろしくお願いいたします。

地域医療の現状と課題についての（1）から、順を追って再質問させていただきます。

（1）の構想開始時期の見通しについて、具体案はまだということでございましたが、再質問させていただきます。

平成29年（2017年）3月に新潟県地域医療構想が策定されました。新潟県における人口減少問題や団塊の世代が、後期高齢者となる2025年時点の高齢化率を踏まえて策定されたものと認識しております。同構想は、2025年（令和7年度）以降が中期再編の時期で大きく変わる変革の年度になるという認識がありますが、その進捗と近隣の上越市、妙高市とはどのような協議が進んでいるか、お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

おはようございます。

地域医療構想の進捗の件でございますが、この3月に、本来であります中核病院、この地域の中核病院を決定するというスケジュールになっておりましたが、県がそれを先送りいたしました。それで今年度、いまだ地域医療構想の調整会議という会議が開かれておりませんので、私も上越3市の中で担当課でいろいろな意見交換、協議をさせていただいておまして、県にはそういった会議を早く開催してほしいというふうに申し入れているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

中核病院が決まっていけないというところをちょっと深掘りして質問したいところですが、引き続きちょっと再質問のほうを進めさせていただきたいと思います。

地域医療構想の目的を見ると、将来の医療ニーズに対応した医療体制をつくるため、新潟県が医療機関の役割分担や連携の仕組みを構築するために定められた構想とあり、限られた医療資源で最大限の効果を必要としています。圏域ごとに特定の病院に医師等を集約し、手術や救急に確実に対応、それ以外の病院では役割を見直すとありますが、役割が見直される病院については、診療科目が少なくなってしまう等の対応で、患者の足がさらに遠のいてしまうのではないかという懸念があ

ります。

上越市や妙高市において、県立病院が設置されており、半径50キロ離れた糸魚川市の市街地には、県立病院がありません。新潟県の中でも糸魚川市は最南端に位置し、現在まで医療体制の確保に大変ご苦労されたことと思います。地域医療構想の医療提供体制のフローを拝見させていただきますと、どうしても事業や経営のスリム化に焦点が行き、将来の糸魚川市の医療構想を考えると、上越市の地域に医師等が集約され、2次医療圏の中でも偏りが生じ、糸魚川市の医療が脆弱化してしまうのではないかと懸念しておりますが、現在の糸魚川市の医療体制の方向性、考え方をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

将来的には、上越市内に中核病院が設けられて、私ども糸魚川総合病院は、地域包括ケアを支える病院というふうになります。その機能の在り方というのは、今、議員おっしゃったように、半径50キロというところの距離感がございますので、糸魚川総合病院には、上越市内のほかの地域包括ケアを支える病院とは違って、ある一定程度の機能を残すということを主張しておりますし、皆さんからもそういった部分ではご理解が得られているというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ご理解が得られているというところで安心したところでございますが、先週、上越市の一部の地域において、集中豪雨の影響で国道8号と北陸自動車道が通行止めとなり、数時間、糸魚川市から上越市、上越市から糸魚川市へ流入できない状況が発生しました。糸魚川市は、陸の孤島と化し、医療アクセスの確保について大きな課題があると感じました。

糸魚川市においては、独自の地域医療構想の考え方が必要であると考えますが、災害時の医療確保についての考え方をお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

先日の大雨のときに、上越市内はかなり水がついて大変だったというふうにお聞きしております。8号も止まって、高速も止まったということで、上越のほうへ向かう手段はなかったということでございますので、地域医療構想の考え方の中で、上越医療圏の中核病院に向かうことができない状況となっております。そういった場合に、今回の場合は西側のほうが交通確保されておりましたので、黒部市民病院だとか、そういった病院に応援をお願いする、助けていただく、そういった医

療体制が必要なのだというふうに捉えております。今後もですね、今回の場合は糸魚川総合病院の中で、かなり病院長も頑張っていたというお話も聞いておりますが、地域を広げて連携できる仕組みが必要だというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

おはようございます。

道路整備の観点から回答のほうをさせていただきます。

先週の集中豪雨の影響ですね、国道8号、北陸自動車道のほうが通行止めとなりまして、幹線道路の重要性というものを再認識したところでございます。

毎年、国のほうに国道8号に伴います東バイパス及び親不知道路等の整備の促進については要望しているところでございますけども、今回の通行止めの状況も加味しまして、緊急時における命を守る道路としての必要不可欠なインフラであるということを再認識しましたので、災害に強い道路ネットワークの形成のためにもですね、市としまして、早期の工事着手を要望してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

地域医療構想の件もそうなんですが、糸魚川市には長年、他県の大学病院に通われているという方もいらっしゃるようです。そういった中で、しっかり医療アクセスの確保っていうのは、本当に大事なライフラインを守っていただくということは、医療に限らず大切なことだと思いますので、また着手が進みましたら、またいろいろご教示いただければというふうに思っております。

現在もこれからも、医療アクセスの確保が糸魚川市の患者さんにとって重要になってくると考えますが、オンデマンド交通やライドシェアの導入検討は進んでいるか、お伺いしたいと思います。

医療アクセスの確保に限らず高齢者は、免許返納などで移動手段が限られる状況の中、糸魚川市の導入意欲も伺いたいのですが、運転手の労働力不足や成り手不足を踏まえると、当面それらの導入は難しいものと考えておられるのか、現時点の考えをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

おはようございます。

お答えいたします。

現状は、通院・通学の足の確保を最優先に路線バスで対応しております。議員おっしゃられるとおり、これからということになりますと、やはり中山間地域を中心とした移動の手段の確保という

のは喫緊の課題だというふうに捉えております。

そういった中で、議員おっしゃられるオンデマンド交通ですとかライドシェアなども含めて、地域の方と話し合いを続けさせていただきまして、その地域にとってよりよい交通、移動手段がどういったものなのかということを模索する必要があると思っております。現在、地域のほうに出向いてですね、そういった話し合いを始めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今ほどいただいた答弁で、そういう方向に進んでいると、最善の方法を導き出していくということとで進めていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

糸魚川市においても、人工透析などでの治療で通院されている方は多くいらっしゃると思いますが、頻繁に通院しなければならない診療科目については、必要な診療科目として残されていくのか、そして、緊急医療の体制はどう変化していくのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

人工透析、糸魚川市内、おおむね70名ぐらいの方が糸魚川総合病院で人工透析を受けられているというふうにお聞きしております。そのような方がですね、今後も今までと変わりなく通院して、そういったケアを受けられるということが大事だと思っておりますので、今後、地域医療構想が進んでまいります、必要な診療科は必ず残していくという考え方で、整理をして考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

続きまして、（2）の質問に入ります。

今ほどいただいた答弁とつながってくるかと思うんですけども、地域医療構想がまとまり、公的病院、糸魚川総合病院の経営は改善され、赤字が解消されているものとお考えかという再質問に入らせていただきます。

個人的な意見になりますが、人口減による患者数の減少によって、県内の厚生連病院の経営はさらに苦しい状況を迎えていくと考えますが、地域医療構想を遂行していくことが、必ずしも病院の経営において赤字の解消につながるとは考えにくく、ただ赤字経営を解消することだけが安全・安心の医療提供体制につながらないとも考えております。地域医療構想において、役割の見直しをしていく病院については、今後も経営維持を支援していく傍ら、一定程度の赤字運営はやむを得ないという捉え方があるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

病院経営ですね、赤字の状態ですね、地域医療構想で、診療科を減らすことによって赤字が解消されるかという、そうではないと思います。議員のおっしゃるとおりだと思います。私ども糸魚川市のように、地理的に孤立する可能性があるような地理的状况なわけですから、このような地域には、多少赤字でも診療科は残していかなきゃいけない、維持しなければならないという考え方で考えておりますし、そこは政策医療として、県や市が行政が、若干支援をしてでも診療科を維持していかなければならないものと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

政策医療ということで、残していく医療はしっかり残していくという答弁いただいて、少しほっとしておるところでございます。

（3）番の再質問でございますが、2025年以降も新潟県による支援は見込めるのか、再度伺いたいと思います。

市は、今後の対応策として診療報酬改定や財政支援措置に関する国・県への要請を継続していくことを考えられておりますが、一時的に赤字による運営資金の補填ができたとしても、老朽化した設備や時代に対応した事務機能などを導入し、それらを更新していきたいとなると、枯渇寸前の資本力の中、その設備については、どのように投資的経費を見込んでいくのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

厚生連の中で、糸魚川総合病院は、今、柏崎の総合医療センターに次ぐ2番目に古い病院、もう三十何年経過しております、移転し、建設をしてからですね。そんな状況ですので、これから先、大きな投資が必要になることが予測されるわけです。そんな病院を、医療機器の面でも、今、厚生連の経営状況から更新を控えておるような状況でございますので、そうすると、将来的に大きな負担が予想されるということで、その辺を危惧しながら考えていかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

経営の話になっていくので、お答えできない部分もあろうかと思うんですけども、例えば何年後かに立て直すために基金の積立てとか、そういったことは厚生連病院のほうで今までされてきているのか、分かる範囲で教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

詳細は分かりかねますが、厚生連の中でもこれまでの黒字経営のときに積み立ててきた資金というものがございました。そういったものであったりを利用して、一番直近ですと村上総合病院、令和元年ですかね、新規に建設をされているものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

それでは、（4）番の再質問に入らせていただきます。

公的病院と公立病院の違いについて再質問させていただきます。

公的団体を運営母体とした病院、厚生連が経営する糸魚川総合病院がありますが、地域医療構想を固めていく中で、自治体が運営する公立病院にしていく考えは、糸魚川市としてあるか伺いたいと思います。

公立病院として運営を転換していくならば、重要視する点と、市民にとってメリットがあれば何か、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今現在、すぐに公立病院ということは考えておりません。ですが、今後を考えたときに検討はしなければいけないというふうに考えておりまして、医療機能に変わりはございませんけれども、市民の皆様であったり、そこの病院にお勤めになる従業員の、職員の皆様にとっては、公立化することによって経営が安定するというか、職場がなくならないという安心感にはつながるのではないかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

その職場がなくなっていくのももちろん大事な捉え方だと思うんですけども、やはり病院としての機能がなくなっていくところが市民にとってメリットなのかなというふうに、お伺

いして思いました。

公的病院から公立病院に運営母体が変わった場合の公的資金、交付税措置などの流れについて詳しくお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

私も、財政担当ではないのでちょっと、本当の詳細は分かりかねますが、基本的には、公立病院には国から普通交付税が交付されます。それは、1病床当たり72万円という額で算出されます。その72万円掛ける、今、糸魚川総合病院の場合ですと199床ございますので、およそ1億4,300万ぐらいの金額になるかと思いますが、そういった交付税が、今の特別交付税のほかに入ってきて、それを病院事業会計に繰り出すことができるというところで、違いがあるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

さらに公立病院になると、普通交付税が還付されるということなんですけども、そういったときに、今現在、糸魚川市が厚生連病院に支出している金額と、実際、公立病院になったときの支出の状況ってシミュレーションってされていると思うんですけども、こういった状況になるのか、お聞かせいただければというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今現在、私ども糸魚川市のほうから、糸魚川総合病院のほうに年間2億5,000万ぐらいのもろもろ補助金であったりというものを支出させていただいておりまして、今年度につきましては、プラス緊急支援で7,000万というのがございます。そうすると3億1,000万、2,000万という金額になるかと思っておりますが、そのうち、特別交付税で措置されるのが約2億円程度ございまして、それ以外の部分は、今一般財源というような状況でございまして、今後、例えば公立病院化して普通交付税を頂けたならば、先ほど申し上げた1億4,300万というものが市のほうに入ってまいりますので、それを繰り出すことができるようになります。

ただ、単純にそういうわけにはいかないというふうに捉えておりまして、公設公営でありますと公務員の身分というふうになりますので、給与体系も変わってまいりますし、公設民営だとしてもですね、指定管理等で出した場合の取決めによって支出する額に違いが出てくるというふうに捉えておりますので、そこに大きな問題が生じてくる可能性があるというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今ほどいただいた答弁で公立病院にしていく、そういう方針を考えるにしても慎重なやはり協議が必要だなんていうのを実感いたしました。

地域医療構想が進み、糸魚川市の医療体制が構築され、数年が経過した後、医療従事者を志し、糸魚川市の様々な制度を活用した大学や専門学校の卒業生の受皿はあるのだろうかという、そういった心配があります。糸魚川市には、医療技術者や介護従事者、看護師確保のために修学金の貸与事業があり、市内医療機関等に従事した場合は、全額返還免除になるという制度があります。安心して働ける環境の整備の一端として公的病院から公立病院に運営を転換していくという考え方もあるのかと思うんですけども、それについて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

公立病院であるからとか、公的病院だからということではなくて、糸魚川市には病院は残していかなければいけない。これは市長もそのようにお考えでございますので、そこは私ども何としてでもやっていかなきゃいけない部分だと思っております。市内で医療人材が不足しておりますので、そのような今、議員おっしゃったような修学資金制度を設けております。そのような中で、それをご利用いただいている方が地元に戻ってきて、就職していただけるように努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

病院の運営・経営について、糸魚川総合病院も市内の診療所も日々ご努力をされております。今後も糸魚川市との連携の下、久保田市政が掲げる縮充の観点で、市民にとって、病院運営にとって有効な地域医療構想を早期に進めていただきたいと考えます。

（5）番の再質問になります。

久保田市長が、順天堂大学へ何度も訪れて、自ら汗をかく活動されていることについての再質問になってきますが、久保田市長と職員の皆様の活動にご期待申し上げるところでございますが、答弁にもございました富山大学とのつながりをしっかり維持していくということをご答弁いただいておりますので重ねてのお願いになりますが、これまで培ってこられた医師確保における連携についても引き続き強化していただき、大切にしていきたいと考えます。人口減による機能縮小に悲観することなく市民が納得し、充実した医療体制の整備に努めていただきたい、このように考えますが、久保田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えいたします。

今ほどの健康増進課長のほうからの答弁にもございましたように、県の医療構想と中核病院という問題がありますが、先般、知事への要望で、県立病院の補助の在り方等は一つの大きな要望事項になっていますが、私としましては、糸魚川市というものを主語にして、知事のほうに要望をいたしました。基本的に糸魚川市については、なかなか新潟県が広い中においても、言葉を選んで言えば取り残されてる部分がございます。その取り残されている部分をどう解消したいのかという部分で意見を述べさせていただきました。

先ほど若干触れました設備について、公立化という部分について、糸魚川市を主語にすると公立化、糸魚川総合病院を全面的に公立化するには、それ相応の資金の運用とか設備の維持管理については莫大なお金がかかりますので、これについてはなかなか進め切ることとはできない。

ただ、一部、国保診療所にはCTとかMRIまでそろった場所がございます。そこに、いわゆる民間が入ってくるという部分を前提に、交渉を順天堂と進めております。

施設の維持管理については、公立、市が対応して、その運用については、民間のほうにさせていただくということ。それと、先ほど申しました、答弁がありましたとおり、これからは、この糸魚川地区だけで完結できる医療もございません。特段、高度医療については、糸魚川総合病院をもってしても、やっぱり都心の高度医療、先進医療には追いつかない部分がございますので、そういう受皿を、ここに固有名詞が書いてありますので、順天堂病院にお願いをしているというところがあります。なので、医療のその受診のすみ分けをきちっとする上で、総合診療科医の派遣、そしてこれは糸魚川総合病院、上越総合病院でできますよと。これ以外の高度な医療に必要なものについては順天堂が受け入れしますよというふうなすみ分けをしながらやっていって、市民の医療ニーズに応えられるようにしていきたいという部分での交渉を今現在してる最中です。

具体的には、この9月議会を終えまして、皆様からいただいた意見、またいろんな要望について、健康増進課のほうと1つのペーパーにまとめて、それを持って10月、実際に順天堂大学の学長のほうに伺って、それらについて何ができるのか、糸魚川市としてこういうことをしてほしいという部分を具体的に今後詰めていきたいというふうに考えております。時間はちょっとかかりますけれども、鋭意努力をして、頑張っていきたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

先般行われました、この地域医療の現状と課題という説明会を終わってから、市民の皆様からちょっといただいた声として、糸魚川はどう展開していくのか、ちょっと資料では分かりにくいということをちょっと受けましたので、今回質問させていただきましたが、今回、数々いただいた答弁

の中で安心できる部分ですとか、しっかり進めていただけてるなっていう実感もありましたので、また、鋭意努力されて進めていただければというふうに思います。よろしくお願いします。

続きまして、2番目の質問に入ります。

糸魚川市における観光振興に向けた取組について、妙高高原地域の大規模リゾート開発で糸魚川市の連携についてを再質問させていただきたいと思います。

7月15日の大規模リゾート開発の協議会では、どのような内容を協議されたのか、詳しく伺いたいと思います。

上越地域の3市や佐渡市が集まった意味は、今までにはない大規模な開発であり、多くの観光客が見込め、近隣地域にも観光客流入による経済効果が期待できることから、広域連携をしていこうという意味合いが深いと考えますが、当日の協議会は、情報の共有にとどまる話であったのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

ご質問の妙高杉ノ原マウンテンリゾート開発計画連携地域活性化協議会におきましては、交通観光部会、地域整備部会、県産品等活用部会、移住定住促進部会がございまして、7月15日に開催されました協議会につきましては、第1回目の全体会議でございまして、ご質問のとおり、全体での情報共有の場でございました。

しかし、広域観光を進めるための交通観光部会とインフラ整備を行います地域整備部会が先行して、活動のほうは始まっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

大体、内容のほう理解できました。ありがとうございます。

大規模な開発ということもあり、完成も段階的で、完成された場所から運営が徐々に始まっていくと考えますが、この大規模なリゾート開発の完成時期とPCGが示す投資に対しての周辺地域への経済効果の予測が分かればお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

おはようございます。

PCGの発表によりますと、完成の時期につきましては第1期が2028年の冬、令和10年の冬になります。2028年の12月にオープン、先行の部分の第1期のオープンを目指すというこ

とであります。その後、第2期の整備が予定されておりまして、そちらについては2034年（令和16年）の完成を目指す、こちらで総合的な完成になりまして、総投資額については2,000億円という報道もされてございます。

経済波及効果と言いますが、周辺への経済の効果の予測につきましては、まだホテルの規模ですとか宿泊客数等も不明でございますので、公表はされておりません。計画では、PCG側の詳細の計画が、今月、9月に公表されるということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

2,000億という、とてつもない金額の投資になりますが、また9月以降、また経済効果が表されるということで、それを待ちたいと思います。

この妙高高原地域の大規模リゾート開発によって、国内外のどのような観光客の流れができるかと想定しているか。広域連携をうたう中、同開発の流れからできるインバウンド需要を見込み、糸魚川市として戦略的に需要を獲得していく考えがあるのか伺いたいと思います。

インバウンド需要を見込んでいるのであれば、日本国内長期滞在の観光ルートの一つとして、糸魚川市を目的地として来ていただくための仕掛けをこれから考えていくのか、伺いたいと思います。

糸魚川市にはどんなお客様を誘客していきたいとお考えか、再度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

インバウンドの観光客の流れに、観光客がPCGのほう、妙高のほうへ入ってくる流れといいですか、まず国内で、特に東京圏から上越妙高駅を、距離的な優位性を生かして、関東圏の日本人をターゲットにしたい、そこから始めたいということでお聞きはしております。その後、必然的にインバウンドが追随する形になるとは考えております。PCGの考えられるニーズといいますか宿泊客需要について、宿泊客がどんなことを求めるかについて、まだ意見交換はできておりませんけれども、必然的に妙高高原にホテルがありまして、我々糸魚川にとって魅力に見えるのは、やっぱり海であるというふうに捉えております。開発されるときコンセプトとしまして、上質なリゾートを提供したいということで、どちらかというと大量の団体客というよりは、個人で少数、長期滞在される方が客層というふうに見込んでおりますので、当市のジオパークを中心とした学び・体験する観光については、このPCGの求める客層のコンセプトと合致するものというふうに考えておりますので、大いに期待したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

これからの動き、変遷によって、また糸魚川市もいろんな動きが生じてくると思いますが、先般、

私が所属している商店街の研修視察で大阪に出かけましたが、大げさではなく観光客とおぼしき人の7割程度は外国人だなというふうに感じました。肌感覚ですが、感じました。それだけインバウンド観光による需要拡大の可能性は、糸魚川市にとってもあるなというふうに感じております。現在、糸魚川市におけるインバウンド観光における受皿、体制づくりは、十分なものと考えておられるか。インバウンド需要による体制を整えている事業所は、糸魚川市においても限られていると感じますが、妙高の大規模開発が進むことによって、糸魚川市のインバウンド観光に対する事業所の機運がさらに高まっていくものとお考えか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

インバウンドをどこまでをターゲットといいますか目標として受皿をつくっていくかというところがまだ不明確な段階なんですけれども、体制、また人、施設等は十分であるとは考えておりません。今後、昨今の白馬の動きがまず顕著でございますが、今後、妙高高原もそういった動きが追随されると思います。今回の妙高の、先ほどの投資額を含めても、インバウンドを商売の対象とされたいという事業者は、今後、確実に増えてくるものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

これ、あくまで個人的な考えなんですけど、糸魚川市のインバウンド需要が見込める観光地としての魅力のアップは、受皿となる個店それぞれの魅力アップが鍵になると考えています。最近、糸魚川市でも外国人観光客を見かけることがありますけど、外国人がお店に来ていただけるかどうか分からない状況に、お店単独でインバウンド観光の需要を踏まえた投資にはなかなか踏み切れないのではないかと考えております。

市内を周遊するための英語表記のマップやキャッシュレス対応などは、インバウンドのお客様を真剣に獲得していこうとお考えの事業所にとって必要なものであると考えますが、インバウンドは、うちには全く関係ないとお考えの事業所にとっては、ずっとこれからも関係のないものでしかないと思います。せっかく観光協会や糸魚川市が広域連携団体との連携で、訪問・営業活動などをして呼び込みをされたとしても、糸魚川市民には親しまれているお店、事業所なのにインバウンドの観光客の受入先の選択肢が限られてしまっは大変もったいないなというふうに考えております。今後は事業所から能動的にインバウンド需要拡大に動いてもらうための支援が必要であると考えております。現在、糸魚川市は、そのような動いてもらうような取組があるか、真剣にインバウンド需要の喚起をしていくなれば、糸魚川市としてどのような支援が必要であると考えているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

インバウンドが糸魚川にどれだけ来ているかという数字をちょっとご紹介させていただきますが、宿泊者数という数字が公表されております。当市につきましては、令和元年、平成31、令和元年の年に2,500人泊、コロナ前で2,500人泊を記録しておりまして、昨年、令和6年が3,000人泊になって、若干増加している状況です。

参考に、先ほどの妙高は、昨年4万6,000人、白馬が70万人程度ということでお聞きしております。現状の糸魚川をまず把握していただきたいというところで、市の取組としまして、インバウンド対応を行いたいという事業者の皆様に、当課におります国際交流員を派遣しまして、日常の会話ですとか表示物・掲示物の支援などさせていただいております。

事業者の温度感が、やはりかなり違うのかなというところは、先ほどの数値から見て、まだまだ糸魚川も生で増えているという実感が薄いからだというふうにも捉えますので、議員ご指摘の、能動的に動いていただけるように、我々もよりたくさん稼いでいただきたいと思いますので、観光協会ともアイデアを出していきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

よろしくお願いいたします。

（2）番の能生マリンドリーム、ピアパーク、そして旧糸魚川市での道の駅設置に向けた構想について再質問させていただきます。

今ほどPCGのペイシャンスキャピタルグループによる大規模開発と併せて、マリンドリームや、ピアパークのリニューアルを前倒しする考えはあるか、伺いたいと思います。

決して慌てることはないとは思いますが、外国人の、例えば富裕層を観光客として意識するならば、駅からの二次交通も踏まえ、充実も踏まえて、これから開発していく考えはあるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ご指摘のマリンドリーム、ピアパークともに、海がストロングポイントの施設であるというふうに捉えておりまして、明白であると思っております。当然、注目をされる施設となると思います。

リニューアル計画につきましては、先ほど市長、答弁させていただいたとおり、まだ未定でございますが、PCGの開発計画が、この後、示されていく進捗に応じまして意見交換させていただき、遅れることなく、周辺観光コンテンツの磨き上げですとか、二次交通の利便性向上ですとか、できる準備を整えてまいりたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

先ほどの答弁の中で、2028年ということで、それで最終的には2034年、まだ時間のほうがございますので、そのタイミングをにらみながらマリンドリームや、ピアパークの整備も進めていただけたらなというふうに思いますので、要望としてお伝えしたいと思います。

地方の官民連携の観光の取組で代表的な取組は、道の駅の運営であると考えます。道の駅は国土交通省の発表で、令和7年6月13日現在で1,230駅が登録されております。旧糸魚川市においては、広い地域でありながら道の駅が設置されておらず、観光客の流入を取りこぼしているように感じております。

久保田市長にお伺いしたいんですが、最近では、国内だけではなく海外からの旅行客も増加しつつある道の駅でございますが、今後、糸魚川市は、旧糸魚川市において、道の駅を増設するお考えがあるか、再度伺いたいと思います。また、旧糸魚川市民の大多数の方に、道の駅設置に対する期待感や、設置に対して支持が得られるものと捉えているか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

道の駅につきましては、能生と青海という部分があって、糸魚川中心市街地には道の駅たるものがないということ。1つの考え方としては、商業施設化する道の駅であると、アクセスの問題だとか道路環境の問題があって、なかなか立地的な部分がないという。もう一つの観点は、防災という部分で、防災道の駅化していくっていう部分がございます。今、松本糸魚川道路が、今後の推移がありますけれども、早期開通に向けて要望はしていますけれども、その道中であって、148号線沿いの部分の利活用が可能であれば、そういう展開も考えられる。

それともう一つは、やっぱり美山という、中心市街地において、美山という部分の立地を生かしていくということも考え併せていかなければいけないんじゃないかなと思っております。

そういう部分で言えば、中心市街地への道の駅には、まだ至っていませんけれども、やっぱりいろんな考え方の中でそういうふうな案は、頭の中には浮かんでおりますけれども、それを具体的にどういうふうな形で進めていけばいいのか、ストーリー化については、まだまだ未決定の部分がございますので、現時点ではあればいいなという部分の対応、それぞれに向けてどういうふうにして進めていけばいいのか、やっぱりこれは検討しなきゃいけないと思っておりますので、ぜひまたいろんなご意見を聞かせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

市民の皆様の中でも、いろんな発想を持ちの方がいらっしゃると思います。そういった中で、久保田市長は本当にちゃんと対話していただいて、反映していただける市長であると思いますので、

対話を繰り返していただければというふうに思います。

それでは、（３）番の糸魚川市観光協会のオフィシャルショップについて、再質問させていただきます。

観光協会のオフィシャルグッズを拝見しますと、大変すばらしいアイデアと面白いグッズが各種が販売されているなというふうに感じました。オリジナルトートバッグや糸魚川大学のＴシャツ、トレーナー、そして、糸魚川ミニ真柏育成セット～育三郎、石ころ探索キットひろっこ、注目なのが、いといがわ石活当日チケット、これらグッズの内容を教えてもらうことで、もっと糸魚川市民の皆様にも知っていただきたいなというふうに感じました。

いといがわ石活当日チケットが、４，０００円から４，５００円するのですが、販売に至った経緯とターゲットとなる世代、性別、内容について、詳しくお聞かせいただきたいのと、販売開始から現在の売行きを詳しく教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

石ころ探索キットというものが生み出されまして、令和元年だったかと思うんですけど、その発売開始から大変好評を博しているというふうに捉えております。石拾いについては、テレビ放送等の影響もございまして、フォッサマグナミュージアムでの石の鑑定も大変盛況でございます。

そんな中、新たな着地型観光のツアーといたしますか、そういった部分でサマーロックフェスというのを開催した際に、夏休み向けに造成したツアーであるというふうに認識しております。

ツアーの参加者については、手元に今資料がございませんのでお答えできませんが、ターゲットは、親子連れになっているものというふうに思います。内容は、親不知海岸、青海の観光案内所に集合して、ガイドつきの石拾いをするというもので、午前と午後、２回開催しております。人数については、昨年度は１６６人の方が全体で参加しまして、今年度は１２９人の参加者ということでお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

それじゃ、もう既にこの１２９人分、４，０００円から４，５００円のご購入をもう決めていただいたということなんですね。すごいなというふうに思います。

今や糸魚川市にとって、石拾いの体験型観光は、糸魚川市に来ていただくための大切なコンテンツであると考えます。石活当日チケットを活用いただいたお客様に、夏であれば熱中症対策としてお休みどころの提案だったり、いといがわ石活当日チケットを切り口に、パッケージした糸魚川の旅の提案などはあるか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

石のガイドをされる方がアテンドするツアーということになりますので、基本的には様々なおもてなしはされているとは捉えております。実施時間など、午前中は１０時から１２時までの２時間、午後は１３時から１５時までの２時間で、それぞれ暑い時期になりますので、当然そういった配慮として、水をお渡しするとかいうことはされているとお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

何が申し上げたいかといいますと、糸魚川荒波あんこう祭りに関しては、そのあんこう祭りを起点にあんこうフェアを開催して、観光客の地域への流入を見越した取組がされており、年々成果が、こちらに関しては出ていると感じております。

当日チケットについては、チケットの購入から体験だけで完結せず、先の稼ぐ観光について、民間事業所と一緒に知恵を絞ることが必要であると考えています。観光地域づくりを行う法人DMOに求められるのは、基本理念や基本戦略を基に、具体的なアクションプランを提案、実践につなげて、民間事業所とともに形にしていくことであると考えていますが、民間事業所と協会内でどうやったら売上げにつながっていくのか、そのような対話は現在されておりますでしょうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

石拾いから地域への流入という部分でのものかと思います。まさしく議員ご指摘のとおりかと思っております。

観光協会につきましては、自主・自立を目指す取組を進められているというふうに評価しております。事業者の、観光協会に加盟する事業者の皆様がもうけられて、当然、協会自身ももうけるという仕組みづくりの構築が必要であると考えております。実際には、人的な体制ですとか、観光のプロフェッショナルの方がどれだけいるとか、課題は多い中ではありますが、事業者に対しまして、今ですと、そんなにもうかってないけども十分というところの方を、こうしたらもっともっともうかるよというところに持っていく対話は、ぜひ行っていただきたいと思いますし、市としても支援してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

よろしくお願いいたします。

山形県に南陽市というところがあるんですけども、この南陽市は、全国でラーメン店の店舗数が全国１位だそうで、２０１６年にラーメン課という課を市役所に設立したそうで、正式な課ではな

くプロジェクト名なんだそうですが、現在までの取組を見ていきますと、地域にあるラーメンとラーメン店を通じて、交流人口の拡大に地域と自治体が真剣に取り組んでいる様子がうかがえます。そのラーメン課の内情については、いずれ調査もしていきたいところですが、糸魚川市においても、新しい地方創生の形、地域の方々と向き合って、稼ぐ観光について取り組んでいただきたいと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ラーメン課というプロジェクトチームは存じ上げておりませんでした。非常に分かりやすいネーミングで、遊び心もあり、非常に面白いものかというふうに思っております。

観光については、当市の市役所の職員も、プロフェッショナルな職員が少ない、非常に育成が難しい部門であるというふうに感じておりまして、そういった部分についてはアイデア出しといいますか、プロジェクトチームのようなものがあって、そこで意思決定されたものが動いていくという取組は、非常に面白いかというふうに思いますので、また我々も研究させていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

新しい地方創生の形に向けて、検討いただければというふうに思います。

（4）番の再質問、糸魚川市が考える新幹線駅周辺のまちづくりについて、再質問させていただきます。

今、糸魚川市駅北地域では、子育て支援に資する広場を整備する検討が進んでおり、8月29日の市民説明会では、様々な反応が見られました。特に印象に残った参加者の発言は、一日でも早く東北電力ビル、宮田ビルの解体工事を進めてほしいという意見でした。

個人的な意見としては、解体も無事に進み、多世代が集える図書館機能を有した子育て支援複合施設の建設が計画どおりに進んでほしかったのが本音ではございますが、今後、行政側が12月までに市民説明会を繰り返し、建物建設から広場建設変更に至る経緯についてご理解をいただき、納得解として広場設置が今の民意であるとするならば、私もしっかり12月には意思を表明していきたいと考えております。

観光の視点に戻りますが、駅北からおよそ300メートル北に進むと、日本海が見え、国道をまたぐと虹の展望台がございます。駅から徒歩で虹の展望台に至るまでに、広場とやぐらが登場するイメージになると思いますが、汎用性のある広場にどのような観光の役割が果たされると想像されているか、久保田市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

私自身が、糸魚川の駅北という部分、やっぱりにぎわいという部分に観点を置いた中において、いろんな見直しに今、歩を進めているということでございます。

ただ、物を、そこに何かがあればにぎわうということじゃなくて、にぎわうというのは、町全体、いわゆる駅北のみならず、いろんな糸魚川におけるコンテンツをしっかりと生かして、やっぱり新幹線駅からさっき言われたように海に向かっていくあそこから、いろんな部分が、何かが生まれていけるように、これからは協働という、市民が、活動人口を増やしながら協働をしていくという部分に、我々自身も声がけをして、協働していただける方を増やしていくということが、まずにぎわいの前提になるんじゃないかと思います。そういう部分においての努力をしていきたいということで、今後、いろんな対話を含めて協力していただける方、協働でやっていっていただける方、また観光協会、また、まちづくりの皆さん、いろいろなプレーヤーの皆さんが、その全体の中で一人一人が参画できる。そして全体が、ハンカチ効果といいますかね、1つのところをつまみ上げると全体が上がってくるというような効果を目指していければいいなというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

これから、市民の皆様と対話を繰り返していくことで、また新しい道も見えてくると思いますし、ご期待申し上げるところでございます。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

東野議員の一般質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時06分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、松田徳彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。〔2番 松田徳彦君登壇〕

○2番（松田徳彦君）

日本共産党の松田徳彦です。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。よろしくお願いします。

1、高齢者福祉の充実について。

(1) 市のアンケート調査では、要介護状態になったときの住まいの希望は、半数以上が自宅になっています。それを支えるのが訪問介護ですが、政府による訪問介護報酬の引下げで全国的に事業所の経営が悪化し、廃業、倒産が続出しています。政府に対して訪問介護報酬引下げの撤回を求めるとともに、村上市のように訪問介護事業所に引下げによる減収分を独自に補助する考えはないか伺います。

(2) 市の介護人材確保の取組にもかかわらず、介護人材の不足が続いています。支援は、主に学生や若い世代が対象と思われそうですが、元気な高齢者が介護事業所に就職するように支援することも求められると思いますが、市の考えを伺います。

(3) 高齢者のみ世帯のうち、高齢者単身世帯は半数を超えています。「子供たちに迷惑はかけたくない」と年金で入れる特別養護老人ホームへの入所を希望する声も少なくありません。特別養護老人ホームの直近の入所待ち人数を教えてください。

また、要介護高齢者が安心して暮らせる特別養護老人ホームの増設が必要ではありませんか、市の考えを伺います。

2、（仮称）駅北子育て支援複合施設整備計画について。

(1) 施設整備の前提となる旧東北電力ビルと旧宮田ビルの解体工事入札が6回目も不調に終わりました。予算を増やして臨んだにもかかわらず不調に終わったわけですが、今後の対応方針は検討されていますでしょうか、伺います。

(2) 国や県からの交付金を受けるための期限に影響はないのでしょうか、伺います。

(3) 市長の提案である「汎用性のある広場」について、市民等に説明が始まっていますが、市民からの声をどのように受け止めているか伺います。

(4) 糸魚川沖には「上越・糸魚川沖断層」があります。想定では5分程度で海岸に最高7メートルの津波が到着します。大町地区には最高1メートルの浸水が想定されています。当該跡地の利用について、周辺の住民が素早く避難できる「津波避難タワー」の整備について、検討できないか伺います。

3、認知症予防補聴器購入費助成事業について。

(1) 令和5年の開始からの利用実績は何件になりますか、伺います。

(2) 利用者に効果検証のためのアンケートを実施していますが、まとまっているものがあれば結果を教えてください。

(3) 新潟県では全自治体が導入しています。対象年齢が「18歳以上」と「全年齢」のところを合わせると23自治体（77％）になります。なるべく早い段階から補聴器を使ったほうが効果があるとされています。糸魚川市は「50歳から74歳」ですが、範囲を広げられないのか伺います。

(4) 県内の助成額は、2万円から10万円まで大きな差があります。補聴器を両耳分購入すると平均40万円ぐらいかかります。5万円以上助成が20自治体（67％）です。糸魚川市では2万円ですが、これは2自治体のみです。高額な補聴器を利用しやすくするために、助

成額を増額できないか伺います。

さらに、支払い方法が「一括払い」のみで購入をためらう方もいます。改善できないか伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

松田議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、社会全体で支える仕組みである介護保険法の理念を踏まえ、独自補助の考えはありません。

報酬の増額については、臨時改定も含め、引き続き国に要望してまいります。

2点目につきましては、各事業所において送迎車両の運転や施設の清掃のほか、直接的な身体介護を伴わない介護助手という形で就労いただいております。事業所の雇用・採用活動について、引き続き支援してまいります。

3点目につきましては、6年8月1日現在での申込者は229人で、減少傾向にあります。

現在、要介護認定者数が減少傾向にあることや高齢者数の将来推計から、特別養護老人ホームを増設する考えはありません。

2番目の1点目につきましては、現在、検討中であります。

2点目につきましては、時間的な制約はありますが、国の補助が受けられるよう努めてまいります。

3点目につきましては、様々なご意見をいただく中で、納得解を見いだしていきたいと考えております。

4点目につきましては、これまで津波避難ビルの指定などの対策を進めており、現時点では津波避難タワーを整備する予定はありません。

3番目の1点目につきましては、本年8月までの実績は28件であります。

2点目につきましては、効果検証のため、補聴器購入前と購入半年後にアンケートを実施しております。主な結果では、「集会等の出席のためらい」が、約8割から約3割へ減少するなど、社会生活上の支障が軽減されております。

3点目につきましては、認知症予防を目的としていることから、対象年齢の範囲を広げる考えはありません。

4点目につきましては、助成額や助成方法について、見直しを検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございしますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

それでは、順番に再質問させていただきます。

1、高齢者福祉のところの（1）です。

訪問介護事業所が1つもない自治体が、半年で8つ増え、全国で115町村に上ります。新潟県内では一村です。そして、残り一つとなった自治体は、269市町村、県内では7町村で、合計384市町村が空白か、その危機にあります。これは全自治体の5分の1を超えています。さらに進むと、保険あって介護なしと言われかねない状況です。

村上市の場合を紹介させていただきますと、事業所にアンケート調査をした結果、廃止を検討中との声もあり、回答もあり、減収分を昨年4月の改定時に遡って、独自に補助しています。これは次期報酬改定までの3年間の措置で、総額は4,200万円です。介護保険給付等準備基金を取り崩しています。市が独自に補助を行ってもペナルティはないそうです。糸魚川市としても、実態を把握するためにアンケート調査を実施する必要があると考えますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

おはようございます。

お答えいたします。

事業所につきまして、アンケートの実施は毎年4月に行っております。今年度の4月の状況も見ますと、訪問介護事業所につきましては、現時点では人員の不足というところや報酬が低い、経費が増大しているというところでの回答がございましたが、困り事としての回答はございましたけれども、現時点では事業所の運営が立ち行かないというところまではいっておりません。

ちなみに、事業所は7事業所ございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

基本的には先ほど市長の答弁もありましたが、介護保険の国庫負担割合を早急に引き上げることが必要と考えております。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、（2）のほうに移ります。

白嶺高校との懇談会では、生活福祉系列の授業取組について伺ってきました。車椅子や高齢者体験キットを使った実習や介護についての出張講義、福祉事務所の出前講座など、具体的・実務的にも学んでいる様子が分かりました。

令和6年度卒業生では、介護職に1名が就職したとのことですが、介護職の希望者は少ない状況でした。介護職の求人数は多いわけですが、市が支援事業を講じても求職者が増えない理由をどう考えていますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

こちらアンケートの状況等を勘案いたしまして、先ほど申し上げましたように、給与体系というところで報酬が低いというところが大きく理由の一つであろうかと思っております。

また、国のアンケートの状況等も見ますと、事業所の体制というところで、相談ができるだとか人間関係というところが、離職の中では多いというふうな国のアンケート調査もございますので、そういったところでも事業所の中のリーダー的な役割の人への支援であったり、研修というところも市のほうで、k a i g o カフェという事業で取り組んでいるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

アンケートも取られているということで、やはり不足分があれば、市としてもさらに支援を講じていただきたいと思います。

物価高という経済的な理由もあり、働きたい高齢者は増えていると思います。

ただ、体力面や負担の大きい業務には、配慮が必要になることも考えられます。先ほどは、助手の業務として働いての方がおられるということでしたが、さらに人材を増やしていく、確保していくためにも、そういう点を踏まえた支援が必要ではないかと思います。

以上、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

高齢者に限定ということではないんですけれども、求人に関しての支援というところも市のほうでは、事業者に対して行っております。事業名は、糸魚川市介護事業所求人活動支援補助金というものです。こちらは、事業所が主体的に行う求人採用活動に対して経費の2分の1、上限10万円になりますが、こちらを補助する制度となっておりますので、こうした制度を活用する中で、広く求人を行っていただけるように支援してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

高齢者も含めた支援があるということですので、そこら辺、やはり高齢者を対象にした支援策の宣伝といいますかね、高齢者に対するアピールをどんどんしていただきたいと思います。

それでは、3番目に入ります。

(3) ですね、特別養護老人ホーム入所対象者の要介護3から5の認定者数は、先ほどは減少傾向という話ではありましたが、2040年ぐらいまでは横ばいで推移するという推計もあります。つまりは入所待機者は減らない。200人を超えている状況ですけども、それは減らないと考えますので、ぜひ増床も含めて検討願いたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

議員おっしゃいますとおり、2035年から2040年、そこが、今の団塊の世代の方たちが85歳になる年齢ということで、そこが一番のピークというふうに考えておりますが、市長答弁の中にありましたように、今、糸魚川市の介護認定率というのが非常にいい状況で推移しております。おっしゃいますように同じような形で推移していくだろうというふうな予測の中で、現時点でも全く足りていないということではなく、事業所の数のほうは不足はないというふうに考えております。県内の状況を見ましても、新潟県の事業者数の平均よりも非常に糸魚川市は多い状況で、人口10万対という数字になりますけれども、新潟県の平均の約2倍の数の特別養護老人ホームがあるという実態も踏まえまして、数としては充足しているというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

入所待ちが減るように、ぜひお願いしたいと思います。

(3) のほうですけども、女性のほうがですね、現状でも長寿という状況ですけども、年金の受給額は女性のほうが少ないという問題があります。特別養護老人ホームでも、ユニット型個室を増やす方向になっておりますが、費用が多床室より高額になります。年金で安心して入れる多床室を増設していく必要があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

経済的な理由でというところは、私どもも把握しているところでございます。

ただ、ベッドの形式ですね、ユニットから、また多床室へということになりますと、各事業所のほうの負担というところもありますので、その辺りは、また事業者のほうとも検討してまいりたいと思います。経済的な負担の支援という部分では、また福祉のほうでの支援が、いろんな制度の中で可能となっておりますので、個別には対応してまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ぜひそこら辺、対応していただきたいと思います。

それでは、2番のほうの駅北施設整備のほうについて再質問です。

（1）についてです。2つのビルとも、劣化による破損など危険性が指摘されています。早急な解体が必要ではありますが、予算については、これ以上増やさないということによろしいのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

予算につきましては、この6月に債務負担ということで1億5,200万円を追加させていただきました。今2億5,000万円という総額で入札6回目、進めさせていただいたところであります。基本的には、この額の範囲内に収まるという形で取組を進めていきたいと考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

それでは、2番（3）のほうに移ります。

市民からは、決定したことの説明なのかという声も上がっております。汎用性のある広場というのは決定していることなののでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議会等でも説明させていただいておりますが、今現在、これまで計画しておりました建物の建設を取りやめて、汎用性のある広場といったところで当該計画地に提案をさせていただいているところでございます。

先日、8月29日に開催いたしました市長と市民との懇談会、また、今後開催を予定しております小学校区単位での地区との懇談会等で、ご意見をお聞きする中で、最終的に決めていきたいというふうに考えているところでございまして、現時点で確定しているというものではございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

説明会なりでもですね、市民の皆さんは、白紙になったのかもしれないというような前提でお考えを述べられる方もいらっしゃると思います。そこら辺のそごがあるようにも感じておりますので、詳しくですね、案内のときにはそういう説明をしていただきたいと思います。

それでは、（４）のほうに移ります。

昨年の能登半島地震では、糸魚川市の最大震度は５強で、津波の第一波は８分後に到着したと専門家が報告しています。津波警報に対する避難行動の問題点も明らかになりました。糸魚川沖の断層による地震では、震度６強から７が想定されていますので、家屋や建物の倒壊もあります。また、高齢者のみの世帯が増えているという問題もあります。津波の場合は、より遠くではなく、より高くが生死を分けることになります。現状の避難場所や避難ビルへの徒歩での避難で十分だと言えますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

お答えいたします。

市長答弁でも１回目に申し上げましたように、これまで津波避難ビルの指定などで対策を進めてきているところでございます。現時点では、津波避難タワーといった形で整備する予定はございません。

津波避難タワーにつきましてもいろいろと調べていきますと、建造するときに多額の経費がかかるということもございまして、やはり維持管理経費もかかる。また、実際に使われる、使われないといった事情もあるようです。やはり階段を上っていくと高齢者の方々もご負担になるといった事情もあるようですので、引き続きそういった点も研究はしたいと思っておりますけれども、まず、津波避難ビル等を指定させていただいておりますので、そちらのほうをご利用いただく、そちらに逃げていただくといったことを啓発も含め、訓練も含め、実施してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

避難ビルの指定につきましてですが、この広場の周辺の方からすると、水平で移動して避難するというような形になります。例えば安藤病院でしたら、さらに上越のほうに向かって歩いていくということになります。それから駅ですね。駅までの避難場所へ行くとすると、また距離もあります。

そういう点で、必ずしも十分とは言えないと思っております。

それから、津波避難タワーにつきましては、国からの補助もあります。また、避難ビルと違い、電源などの動力を使わずに短時間で高いところ、高所に避難できる設備を設置することもできます。それから経費につきましても、やぐらのタイプとかですね、いろんなタイプがあります。

今申し上げました短時間で高所に避難できる設備の一例としましては、ライフガードリフトという、水と重力で動きまして、10メートルの高さまで1分で移動できるというものもあります。しかも停電でも使用できますので、災害時には足の不自由な方、高齢者の方の高所避難にかなり有効です。

そして、駅北の整備計画につきましては、災害からの復興という経緯もあります。復興のシンボルとして、またランドマークとして、火の見やぐらの機能を持たせることも考えられます。問題解決のためにも検討できないか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

中村消防次長。〔消防次長 中村淳一君登壇〕

○消防次長（中村淳一君）

やはり津波避難タワーということになりますと、おっしゃるとおりのメリットもあろうかと思えますけれども、私、先ほど申し上げましたようなデメリットと言われる部分もあろうかと思えます。例えば今ほどご指摘のある大町区さんにおきましては、津波避難ビルという形で、ぬびやさんですか、それから糸魚川駅へ逃げてくださいという方法も、今回の訓練でもご利用いただいております。

そもそも津波の国道までの高さも、大町区の場合でもございますので、そこを乗り越えて津波が来るといった可能性、確かにおっしゃるとおり5分以内に来る可能性というのはあるんですけれども、そこから何とか逃げてくださいような形を考えていきたいとは思っております。引き続き、訓練ですとか出前講座を通じて、皆さんに周知啓発のほうを進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

引き続き、懇談会、それから説明会もあると思いますので、ぜひそういう中から出てきた意見も踏まえて、検討していただきたいと思えます。

それでは、3番の補聴器の購入費助成事業についての再質問です。

（1）につきましては、28件ということで、利用はされているという数になっていると思えます。

ただし、やっぱり宣伝不足といいますか、それからさらに改善があるというような件数でもあるというふうに思えます。

そして、（2）のほうのアンケート結果につきましても、集会の参加などにされる方が増えているということですので、効果はあるということではよろしいでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

1つ目の宣伝不足というところでございますけれども、令和5年度から開始された事業でありまして、その初年度は、各医療機関であったり、あとは公民館であったり、ポスター、チラシ等の配布ということをしておりましたが、その後、同じような形で、改めて周知ということとはしていなかったもので、また宣伝不足というご指摘がございましたので、周知の仕方というところは、また検討したいと考えております。

もう一つは、アンケート結果という部分でございますけれども、こちらは一例ということで挙げただけですが、先ほどの集会への出席をためらわなくなったということ以外にも、不利益を感じるものが少ないとか、ストレスを感じなくなったとかというところで、非常に効果が上がっているという結果で、そのような形でまとめております。

以上です。

○議長（古畑浩一君）

携帯電話の電源をお切りいただきたいと思います。傍聴席の皆さんね、ご協力をよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

効果があるというお答えだったと思います。

（3）のほうに移りますが、県内で本市と同じ50歳から74歳は、4自治体です。加齢による聴力の低下は、一般的には40歳を過ぎると始まるようですが、加齢以外の場合もあると思いますので、ぜひ対象を広げていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

対象年齢につきましては、こちらの事業の目的は認知症予防というふうに設定をしておりますので、あくまでも中高年期から老年期ということで絞って事業を展開しております。

また、加齢による理由だけでない難聴ということでは、障害者手帳の対象になるレベルの難聴の方については、別の制度となりますが、障害者手帳による補聴器の補助という形で制度がございますので、そちらのほうをご案内をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

目的が認知症ということになっているからということですが、幅を広げるという点では74歳以上も含めることも考えられますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

それでは、（4）のほうに行きます。

先ほども認知症対象ということでしたが、高齢者の場合は難聴があると1.6倍多く認知機能低下を合併するという研究成果があります。要するに認知症になりやすいということですね。難聴と認知症の関係は、明らかになっているということです。

またですね、聞こえが悪くなりますと、会話とか人付き合い、外出、先ほども集会への参加などの話もありましたが、それらがおっくうになって参加しないという方向を選択される機会が多くなると思います。つまりそれらを避けるようになりますと、フレイル、つまり病気の一步手前の虚弱の状態になるリスクが高いと思います。

さらに、会話が極端に少なくなると、声帯が衰えて、嚥下、飲み下しですね、嚥下の機能が低下します。そうすると、誤嚥性肺炎になりやすくなると考えられます。難聴とフレイルなどとの関連性について、どう考えますか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

難聴とフレイルの関係性というところは、科学的根拠等のデータ等は確認はしておりませんが、おっしゃいますとおり、やはり難聴があるということで社会参加についての制約がかかったり、コミュニケーションが図りにくいというところで、やはり、要は閉じ籠もりがちになるという原因の一つということはいろんなところで明らかになっている部分でありますので、関連性はあるというふうに捉えて、現場のほうでもフレイル予防の中でも難聴の方への支援があるという部分や、難聴がある場合の早めの対応、もしくはそういった集団の場での配慮ということも含めて、フレイル予防教室のほうに取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

データはないけれども、関連性は考えられるということでした。つまり、補聴器の効果は、認知症の予防だけではなくて、健康寿命を延ばして、医療費や介護費を減らすことにもつながると言えます。これであれば、費用対効果というのはかなり高いと考えられます。

さらに現実的な話をしますと、申請する前に病院に行き、受診して、医師の意見書を出してもらうわけですが、それには交通費も含めて数千円の実費がかかります。2万円でもありがたいわけで

すが、迷っている人の背中を押すには弱いと思います。助成額を増額して、多くの人が補聴器を利用したくなるようにしていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山岸福祉事務所長。〔福祉事務所長 山岸千奈美君登壇〕

○福祉事務所長（山岸千奈美君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁のほうにもございましたとおり、助成額・助成方法も含めて見直しということを考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

松田議員。

○2番（松田徳彦君）

ぜひですね、そこら辺、市民の皆さんが、安心して補聴器を購入できるようにしていただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

松田議員の一般質問が終了いたしました。

昼食時限のため、休憩を取ります。

再開を午後1時といたします。

〈午前11時54分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、関原奈津美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。〔5番 関原奈津美君登壇〕

○5番（関原奈津美君）

みらい創造クラブの関原奈津美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市の救急医療体制の維持・向上と救急医療体制に不可欠な道路整備の進捗について。

6月23日の市民厚生常任委員会の糸魚川総合病院との委員会協議会において、糸魚川総合病院が赤字を回避するための人件費や病床の削減、黒字化に向けたシミュレーション対策をお聞きし、

大変な努力をされていることを理解しました。

また、8月24日の地域医療の現状と課題の市民説明会においては、地域医療体制への市民の関心の幅広さと高さをお聞きすることができました。

医師・看護師不足、市内開業医の高齢化、糸魚川市の少子高齢化における人口減少、糸魚川市の地理的条件において、今後、糸魚川市内の医療機関、糸魚川市行政単独で救急医療体制を維持していくことが難しくなることは「自明の理」です。

「市民の生命と財産を守る」という、私たちの大命題を果たすべく、糸魚川市の救急医療体制について、市長のお考えを伺います。

- (1) 糸魚川市内の救急医療体制の現状を伺います。
- (2) 糸魚川市内の救急医療体制の課題を伺います。
- (3) 新潟県が進める地域医療構想に対する市長の考えを伺います。
- (4) 糸魚川市の地理的条件から、救急医療体制に不可欠な道路整備の進捗と今後について伺います。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

関原議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、糸魚川総合病院において、市医師会の協力を得て、24時間365日の救急医療体制を構築しております。

2点目につきましては、医師不足や高齢化、それに伴う医師1人当たりの負担の増加などが課題であると捉えております。

3点目につきましては、医療機関の役割分担や連携の仕組みづくりを目的としておりますが、当市の地理的条件を踏まえ、市民が安心して暮らしていけるよう、必要な診療機能を確保することを重視してまいります。

4点目につきましては、緊急車両の通行に支障が生じないように、生活道路である市道整備を計画的に進めるとともに、国や県に対し、道路の整備促進について強く要望してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

それでは、(1)、(2)、(3)の糸魚川市内の救急医療体制の現状と課題、市長のお考えについて、併せて再質問させていただきます。

現在、糸魚川総合病院では、年間、救急車で搬送される台数が約2,000台と、救急の自主来院者数が約4,000名を24時間365日で対応されております。人口減少や高齢化が進む糸魚

川市において、病院経営の観点から成り立つ診療科目は限られると考えております。いわゆる不採算診療科目の見直しについて、糸魚川総合病院と協議はされているのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院とは、これまでも数回にわたりまして不採算診療科の部分、何とかそこを解決できないかというところはお話をさせていただいております。今、厚生連が、全体で大きな赤字を出しておりますので、そういったところを解消して、少しでも黒字化に向けていけないかということなんですけども、先ほど来からお話してますとおり、なかなか僻地医療というのは黒字化をすることが困難でございます。ですので、不採算であっても残していかなければいけない医療については、診療科については残していかなければいけないというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

救急で糸魚川総合病院へ搬送された際に、専門医師が不在だったということを市民の方からお聞きしました。今後、不採算診療科目の見直しが行われることにより、診療科目が限られ、救急における専門医師も不在と考えられます。この場合の対応について、糸魚川総合病院の方とは協議されていますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

糸魚川総合病院の医師の数には限りがございますので、その日にたまたま担当、診療科の医師がいらっしゃらなかったり、またはほかの患者さんの対応をされていて手が回らない、その次の患者さんを受け入れることができないという場合には、上越地域を中心とした、連携している病院への搬送という形になるというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

先日の市民への説明会で、糸魚川総合病院の救急体制において、医師1人当たりの負担は県立中央病院や上越総合病院より多いと聞きました。市民にも、時間内受診や適正受診を呼びかけておられました。糸魚川市は、新潟県の救急医療電話相談の＃（シャープ）7119の対象地域であります。市民へは、どのように周知をされていますか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

ホームページ等で、県のほうとリンクを貼っておりますし、そのほか都度都度、その情報を皆さんにお知らせしてるつもりなんですけども、なかなかまだまだ十分伝わってないというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

病気になって初めてその情報を知るのでは遅過ぎますし、ホームページや広報などの情報にたどり着けない市民の方にも配慮も必要だと考えます。誰一人取り残さないために踏み込んだ周知をお願いいたします。私たち議員も周知に努めたいと思います。

続けて、質問いたします。

糸魚川市全体の救急搬送状況は、1日平均6.1件ということですが、糸魚川総合病院へ救急搬送された患者が3次救急医療機関へ搬送された事例は、年間どれぐらいの割合で推移しているかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

上越市内への搬送というご質問かと思いますが、令和6年、1年間におきまして389件、上越方面のほうへ収容をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

病気の発症は、いつ起こるか分かりません。病気が発症したときには、昼夜問わず、専門医師の診察が可能な体制づくりが必要ですが、現状では、市民の不安と医師への負担が増すばかりだと考えます。新潟県が進める地域医療構想への積極的な要望と、上越圏域の自治体との連携をさらに深める必要があると考えます。救急医療体制に対する市長のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

先般、知事との医療体制の要望のときに、先ほども申し上げましたとおり、糸魚川市を主語にして、質問・要望をさせていただきました。とりわけ救急医療搬送体制について、糸魚川市は上越方面はもちろん、富山方面にもやっぱりそういう経路が必要であるということで、県知事のほうから、富山県のほうにも救急医療体制の協定等、ご指導いただきたいという部分で要望しておりますので、いずれにしても県の北側・南側をしっかり視野に入れながら、救急体制は取り組んでいかなければいけないと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

糸魚川市として、県や厚生連、関係自治体との連携を図りながら、糸魚川総合病院へ財政支援をしております。この支援に対する現時点での評価をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

今年度、緊急支援を県と一緒に実施しておりますが、これは令和7年4月の厚生連の資金ショートを回避するための支援ということでございまして、このまま推移していきますと、令和8年度のどこかで、またそういった状況に陥る可能性がございますので、引き続きそういった財政支援を県と一緒に継続してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

市独自の財政支援は、今後も継続していかれるのか、市長のお考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

市独自の支援は、必要だと思います。

ただ、新潟県の県立病院、厚生連への、やっぱり補助、支援の額を、やはり厚生連と、特に糸魚川総合病院に係る部分に振り分けていただかないと、市独自の支援については、やはりこれから継続していく上では非常に厳しいものがあると理解しておりますので、まず、県が県立病院、厚生連

のほうに資金援助、支援をしていただくということを前提に、糸魚川市が独自でどういうふうな支援体制ができるのか、今後の資金の見通しも含めて検討していかなければいけないと思います。必要なものは、やはり当てていかないと、やっぱり住民の生命・財産を守っていききたいというのが、まず本意でありますので、そういう観点で対応させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

糸魚川市は、長年、医療の存続、医師の確保に向け、新潟県や富山大学に要望活動を続けてまいりました。また、久保田市長におかれましては、先ほどの東野議員の質問に、順天堂大学には高度医療の受皿や総合診療科医の派遣をお願いしていくという答弁がございました。

市長は、10年後の医療分野、特に救急医療についてのバックキャスティングはどのように描かれていますか、また、具体的にお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

救急医療体制については、10年後にかかわらず、明日、明後日の問題がありますので、バックキャスティングとしては、現時点よりも下回らないように、どうやって資金の調達、医師の確保、そういうものを含めて取り組んでいかなければいけないと思います。現時点で、各病院、大学病院等にそういう問合せをした中では厳しいというお返事をいただいておりますけれども、厳しい中にあっても糸魚川市の状況をやっぱり粘り強く伝えながら、明日以降、10年後も変わらない救急医療体制の構築に向けて努力をしてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

新潟県が進める医療構想と市長が考える、これからの糸魚川の地域医療構想の方向性は同じで、今まで糸魚川市が築いてきた県や富山大学との信頼関係を良好に保てると期待してよいか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

良好な関係は続けなければいけないと思います。

ただ、やっぱり関係というのは相手もありますし、こちらの状況もあります。それをうまく、どういうふうなところで接点をつくってやっていかなきゃいけないか、やっぱり双方の適宜・適所の情報交換が必要だと思いますので、そういう部分では汗をかいてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

それでは、（４）救急医療体制に不可欠な糸魚川市の道路整備の進捗と今後について再質問させていただきます。

地域医療構想の取組が進められている中で、中核病院までは50キロと離れている糸魚川市の地理的条件は、救急医療体制のさらなる強化が必須事項だと考えます。すぐに治療を受けなければならぬ病気もございます。この特別な条件下の糸魚川市を押して、県または国へドクターカーの開設を要望するお考えはありますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

林健康増進課長。〔健康増進課長 林 壮一君登壇〕

○健康増進課長（林 壮一君）

お答えいたします。

ドクターカーにつきましては、地域医療構想の上越圏域の議論の中で話が出ておりました。ドクターカーの配置というのは、今想定している上越市内に中核病院ができると仮定して、そこにドクターカーを配備して、糸魚川市からの救急搬送に対して、向こうからも医師が乗って、中継点へ向かっていただく。それで、中継点でその医師と合流して、搬送先の病院に患者さんを搬送するという考え方ですので、中核病院のできたときに、そこにそれだけの、救急車に乗れるだけの医師に余裕があるかという問題も大きく関わってまいりますので、その辺が今後の構想の再編の課題だというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

9月2日から3日にかけて降った大雨の影響で、糸魚川、能生インターチェンジを含めた北陸自動車道と国道8号線の上越、名立、小泊から加賀町の全面通行止め、さらには国道8号線早川橋で発生した車両事故がありました。能登半島地震時に続けて、迂回路がない糸魚川市内における道路機能の脆弱性が明らかになりました。緊急搬送時は、道路が正常に機能していることが大前提です。もし、先ほどのドクターカーが導入されても、道路が使えないのであれば話になりません。現状は、迂回路すら断たれてしまう状況です。

昨年度の市議会でも質問がありました、緊急時における糸魚川東バイパス親不知道路、松本糸魚

川連絡道路の果たす役割について、市長はどのようにお考えか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

緊急搬送・輸送については、今ご質問のとおり、非常に交通の、道路がそこで寸断されますと先回のように八方塞がりになるということになります。それについて言えば、現時点で県・国に強く要望しております道路整備については、粘り強く今後も早期の実現に向けて、続けていきたいと思っております。

また、先般、9月の時点での大雨についての交通止めについては、早急に対応しなければいけないということで担当課を通じまして高速道路、また8号線の管理については、緊急車両の運行について、ぜひ特例措置を認めていただきたいという部分で強く要望いたしたところであります。

それともう一つは、北陸整備局の局長さんが、こういう状況を鑑みて、早期の開通を目指してということで連絡を受けました。そういう部分においては、糸魚川市としての対応は迅速に進められたんではないかというふうに感じております。

また、先ほどドクターカーということもありますけども、ドクターヘリの運用について、空路、それについても進めなければいけないと思いますし、その要望については進めていきたい。

もう一つは海路という部分があります。幸い海路は姫川港、また浦本港、能生港という部分からの搬送について、今後どのように対応できるのかも含めて、検討材料の一つとさせてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

緊急時だけではなく、市内における物流や渋滞解消、洞門の老朽化により、早急な道路整備が望まれて、長い時間経過しております。国や県の財政事情も理解できますが、近年は、特に緊急時の市民の命を守る道路として必要性が増していると考えます。事例を挙げて、県や国へ要望する必要があると考えますが、進捗があればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

東バイパス、親不知道路、あと松本糸魚川連絡道路、それぞれの路線につきましては、糸魚川市の幹線道路として重要な役割を担っておると捉えております。

先ほどもお話ありましたとおり、先週の集中豪雨で交通規制があったりとか、あと、時々事故に

よる交通渋滞とか招いたりすることもありまして、沿線住民の生活環境とか、あと、地域経済活動へ大きな影響を及ぼしているところでございます。地域の発展や振興に必要な不可欠でございますので、救急医療も支える重要な道路であることから、先ほど市長も申し上げたとおり、早期の工事着手に向けて、引き続き国・県に要望のほうを働きかけていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

補足でお答えさせていただきます。

事例を挙げて、道路整備をしているかという質問だったと思います。

先般、私も松本糸魚川連絡道路の際には、事故で交通止めになった事例を挙げさせていただいて、要望させていただいたり、過去に、親不知道路なんですけども、洞門での死亡事故例を示す中で、早急な整備をしてくださいということでお願いをしてきた経過がございます。今回、早川橋の車両火災の事故等もありましたので、そういったものをしっかり国に伝える中で、道路整備に努めていただくよう要望したいと思っておりますが、国土交通省においては、そのことも理解いただいているというふうに思っておりますので、国土交通省と私どもも一緒になって、国のほうに予算獲得をしていくように頑張っていきたいというふうに思っております。

また、先ほど市長のほうから、北陸地方整備局長と連絡取ってというふうに申し上げたと思うんですが、正確に申し上げますと北陸地方整備局の高田河川国道事務所長と緊急連絡を取って、緊急車両が通れるようにやり取りをしたというのは、私も現場におりましたので確認をしておりますので、そのようにご承知おきください。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

工事を進めるには、工事区間のお住まいの住民との合意が必要な事案もあると思います。市内の医療と対話を大切にする久保田市長のトップセールスを発揮していただきたいと期待しますが、いかがでしょうかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご質問にお答えします。

まず、そういうご期待があるという部分を重々承知しながら、やっぱりトップセールスに向けて、自分自身、汗をかいてまいっていきたいと思いますし、今回、医療関係については、当然しっかりとターゲットを絞って対応中でございますので、前の答弁にもありましたとおり、10月を目途に、それなりの対応に向けて動きをしていきたいと思っております。

また、必要な道路整備については、いろんな議員の方からも応援もありまして、そういう部分で、担当局長のほうにもやっぱり複数回、面会をさせていただきまして、糸魚川市としての要望についてはお伝えしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関原議員。

○5番（関原奈津美君）

先日も、市内で独り暮らししている高齢者から、この冬を機会に医療資源の整っている金沢市内の高齢者住宅へ移住するという残念なお話を聞きました。糸魚川市における人口減少の原因が、若者ばかりではないということをお伝えしたいと思います。新潟県が進める地域医療構想の進捗に合わせた国・県との信頼関係の構築と、糸魚川市の緊急医療体制の維持と向上を願ひまして、質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で関原議員の一般質問が終わりました。

関連質問は、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

次に、渡辺栄一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。〔4番 渡辺栄一君登壇〕

○4番（渡辺栄一君）

渡辺栄一でございます。

市民の皆様方をはじめ、いろいろな方々のお知恵を賜りながら、稼げるまち、人口増を目指し、活動することで、当市の翠の交流都市、さわやか、すこやか、輝きのまちへ寄与してまいりたいと存じております。よろしくお願いいたします。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、今夏の異常な高温現象に伴う対策について。

今夏の渇水で、市内の第一次産業にどのような被害が出ているか。また、その対策を併せて伺います。

(1) 全国的に渇水が問題となったが、稲作に関する市内の状況はどうか。

(2) 市は、渇水に対するかんがい用資機材の購入、借上げの補助策を行っているが、その利用度はどの程度か。

(3) 養鶏や牧畜などの事業者の被害状況はどのようなものであるか。

(4) 国や県と連携して、必要な被害救済策を行うことが求められるが、市はどのような施策を考えているか。

(5) 今後、中山間地における、ため池等の整備が必要と思われるが、いかがか。

2、（仮称）駅北子育て支援複合施設整備計画について。

（仮称）駅北子育て支援複合施設整備計画について、当市が大町地区に所有する既存施設「旧東北電力ビル」と「旧宮田ビル」2棟の解体工事の入札が、通算6度不調になったことの今後について伺います。

(1) 「旧宮田ビル」まで解体の範囲を広げた入札を試みたが、不調に終わった。この原因は金額が合わなかったのか。あるいは応札事業者が出なかったことによるものなのか。

(2) 予定価格の積算根拠は、適正と考えられるか。

(3) 今後、入札事業者の範囲を広げる考えはあるか。

(4) 今年の12月を目途にしている国への利活用案の変更は間に合うのか。

(5) 補助金を当てにせず、一般財源で解体を行えば、資材高騰がひと段落するまで、静観することもできるが、そのような考えはないか。

(6) 整備事業者（4者）との協議・清算等は、どのようになっているか。

3、当市の諸課題について。

(1) 登山道の整備等はどのように行われているのか伺います。

(2) 市内におけるアンダーパスの箇所、冠水対策などはどのようになされているのか伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

〈午後1時33分 休憩〉

〈午後1時33分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、8月20日時点で、水稻の被害状況は、5ヘクタールと把握しております。

2点目につきましては、8月末時点で4件の申請を受理しております。

3点目につきましては、生産者からは、大きな被害はないとお聞きしております。

4点目につきましては、今後の状況に応じて、必要な支援を検討してまいります。

5点目につきましては、農業者の意向に応じ、整備を検討してまいります。

2番目の1点目につきましては、今後の入札に影響があることから、答弁は差し控えさせていた

だきたいと思います。

2点目につきましては、複数の市内事業者からの参考見積りを基に積算しており、適正と考えております。

3点目につきましては、昨年度の途中から市内事業者に限らず、全国に事業者の範囲を広げております。

4点目につきましては、間に合うように努めてまいります。

5点目につきましては、解体費の全てを一般財源で支出する場合には、その費用負担だけでなく、補助金や起債などで運用している他の事業への影響も想定されますことから、難しいと考えております。

6点目につきましては、ご理解をいただき、解約協議に応じていただいております、協議がまとまりましたら議会に報告し、解約金等の費用負担についてご審議いただく予定としております。

3番目の1点目につきましては、地域や有志で組織されている愛好家団体の皆様から、整備を行っていただいております。

2点目につきましては、26か所あり、注意喚起の標示、排水ポンプ設備や冠水センサーを設置するなど、状況に応じた対策を講じております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度の質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

それでは、2回目の質問に入ります。

5日の利根川議員とかぶるような内容の質問もありますが、事前の打合せは行ってはおりません。なるべく重複しないようにしたいと思っておりますので、お願いいたします。

それでは、順番は、1番目からとしたいと思います。

今夏の異常な高温現象に伴う対策についてであります。

先ほど市長答弁では、5ヘクタールというような答弁であったかと思っておりますけれども、どこの地域が被害が大きかったのか。また、この畑作で特に被害というものはなかったのか、そこら辺を教えてくださいたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

災害の面積につきましては、約5ヘクタールということで回答させていただきましたが、一昨年ですか、令和5年も同じような渇水被害がございまして、そのときと同じように、やはり能生の東側、能生川より上越寄りといいますか、そちらの中山間地のほうが特に被害が目立つ状況となっております。

また、畑作につきましては、個々の、個人でやってる畑については詳しい状況は分かりませんが、園芸、大きな園芸でやってる農家さんにお聞きしますところ、畑につきましては今のところ大きな影響がなかったというふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

そうですね、個人の畑ですと、なかなかこう、もう水やるのはやめたみたいな感じで、被害状況ってのは分かんないかと思います。

先ほどおっしゃってた園芸については、あまりなかったというようなことは理解をいたしました。一応、何かこの渇水、1番の稲作に関しては、何か相談があって、何か解決したというようなことはありましたでしょうか。令和5年と同じような箇所だというようなことなんですけども、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

7月の降雨というのは、例年の1%から2%という降雨量でございましたので、既に梅雨明け後ぐらいから、農家の皆様からは、やはりかなり水が厳しい、ため池の水が減ってきているというようなご相談はいただいております。それで、用水のほうも番水ということで、当番を決めて水をかける時間といいますか、制限するような形でやっているというご相談をいただいております。

そうした中で、市といたしましても令和5年のとき同様にポンプですとかホース、いわゆるかんがい用水を確保するための資機材の購入、リース代の費用の補助ということを実施いたしまして、農家の皆さんからは、そうした制度についてご利用いただいているというような状況になっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

収穫量というのは、まだ分からないかとは思いますが、品質はよいというような報道も聞いておりますけれども、現状をどのように分析をしておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

農林水産省のほうでは、8月末に公表いたしました8月15日付の作柄の状況ですけども、10アール当たりの収量というのは、新潟県は前年並みというふうに農林水産省のほうで判断しているようです。

それと、9月の4日の日に糸魚川管内でも、今年取れました早生品種のお米の検査がございましたが、今のところ100%、主食米については100%一級米だという結果が出ておりますので、これから晩成品種のほうが出てまいりますので、ちょっと具体的なこととしては、これからの検査に委ねなきゃならん部分が多いかと思っておりますけども、少しでも一等米比率が高くなることを期待したいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

今のところ、前年並みというようなことで、一安心というわけじゃないんですけども、順調であるというふうには理解をいたしました。

（2）でございます。かんがい用水用の資機材の購入とか借上げの補助なんですけど、これ4件ということなんですけど、意外と少ないのかなというふうに思ったんですけどね。6月の下旬からまとまった雨が降ってなかったという状況が続いておって、案内がちょっと遅いんじゃないかみたいな、そういった声も聞いたんですけども、そこら辺は、この広報なんかも見ますと、7月の18日からというようなことが書いてあるんですけども、そこら辺は何ていうんすかね、思っていることと、この期間と、この18日というのは、もう1週間ぐらい早かったらよかったのかなとか、そう思ったりもしたんですけど、そこら辺はどのように考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

市長答弁のほうで今、申請が4件ということでお答えさせていただきましたが、ご相談のほうは、既に三十数件いただいております。当然、これから申請の手続していただけるものというふうに見ております。

また、周知の時期ということで、7月18日だということだったんですけども、私どもといたしましても、すいません、梅雨明けが実際には6月29日頃だということだったんですけども、最初の気象庁の発表では7月18日でございました。ですので私どもといたしましても、やはり梅雨の期間というのは何らかの雨が降るだろうということを期待して、この7月18日までおったんですが、7月18日に梅雨明け宣言されたことから、これ以降、やはり大きな雨が期待できないということで、その梅雨明けの日をもって、今回、皆様のほうに周知させていただいたというようなことになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

梅雨明け以降だということは理解をいたしました。

3番目でございます。

先ほど育てている牛等が病気になったというようなことは聞かなかったということでしたけれども、畜舎の中で、この扇風機用というんでしょうか、少し冷やすために扇風機なんか回してるんですけども、やっぱり電気代というのがやっぱりかさむというようなことで、やはりやられてるオーナーさんなんかに聞きますと、救済処置というんでしょうかね、そういったものがないのかなというようなことは相談を受けたんですけど、そこら辺は糸魚川市ではやっておるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今回、電気代の補助というのは、渇水のためにポンプを回して田んぼに水を当てる、そうした電気代については今回補助しておりますけども、畜産ですとか、園芸のほうの電気代ということになりますと、そちらについては、糸魚川市としては補助のことは検討しておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

他市のことで恐縮なんですけども、上越市では、この畜舎の暑熱対策設備に要する電気代料金、7月、8月、9月、暑熱対策による上昇分の2分の1以内を支援するとありますけれども、こういった事例もありますので、今後、何ていうんでしょうか、だんだん牛だとか、そういった何ですかね、やられてるオーナーさんもだんだん少なくはなってはきておるんですけども、ぜひそういった方にも手を差し伸べていただければと思いますので、今後よろしく願いいたします。

（4）ですけれども、以前に比べまして夏の気温が上昇傾向にありまして、救済策というものを講じながら、担い手を確保するためにも力を入れてもらいたいと思います。農業所得を上げていかないと、この就労の魅力というのはやっぱり伝わっていかないので、今後どのようなことを考えられているか、そこら辺をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

先週末、農林水産省から発表されたところによりますと、全国で高温耐性品種、いわゆる暑さに強いお米というのが16%ということで、7年前の2.2倍に膨れ上がっていると。新潟県につきましても29%が、既にそうした品種になっているということです。市といたしましても当然、生産者の意向というのは一番大事になるんですけども、生産者の皆さんが、そうした品種転換したいというときに苗の手配ですとか、そういったものがスムーズに行えるよう、関係機関、JAですとか普及センターと、前へ進めていきたいというふうに考えておりますし、やはり暑さに耐える農業ということになりますと、やはり機械化ということになってくると思います。やはり機械化といいますと、やはり大区画圃場、一昔前は3反歩の圃場整備が通常でしたけども、今は1町歩超える圃場整備というのは、全国でも当たり前のように行われておりますので、市のほうでも圃場整備の推進、基盤整備の推進というのは国へも要望を上げておりますので、引き続きそちらの整備につきまして、国・県のほうに要望を上げていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

ぜひお願いいたします。

（5）番でございます。中山間地におけるため池等でございますけれども、先ほど市長答弁にもありましたように、農業者に寄り添うというようなことであったというふうには理解はしておるんですけども、今後もちっと雨が降らないで、高温傾向が続くと思います。やはり水を確保するためにも、地域に寄り添った政策を打ち立ててほしいと思います。品種改良が進み、暑さに強いものが出てくるかもしれませんが、最低限の水は必要だと思います。天候に左右されやすいし、毎年リスクを減らしていけるようお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、2番の（仮称）駅北子育て支援複合施設計画についてであります。

市は、昨年度、実施した旧東北電力ビルの解体工事の入札不調が、昨年7月から今年1月まで5回連続して続き、本年度、新たに近隣の旧宮田ビルも併せて解体する工事計画に変更して、入札を実施しましたけれども、通算で6度目の入札が成立しない事態となったことについて、どのように捉えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員おっしゃるとおり、昨年の7月からこの7月まで6回入札のほうをしておりますけれども、解体事業者のほうは決まっております。当初これまで5回、昨年5回やってきた中においても所在地の要件とかは、市内の本支店といったところの条件を緩和したりとかという形で、都度都度、設計内容等も見直しをしたりということで取り組んできておりますが、今回も入札事業者の決

定に至らなかったというところでございます。今現在、先ほどの市長答弁ありますように、今後の対応について庁内で協議をしているところでございますので、また対応が決まりましたら事業のほうを進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

2棟のビルなんですけども、このどういう目的を持って取得されたものなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

旧東北電力ビルにつきましては、令和2年の12月に売買契約というような形で取得をしておりますし、宮田ビルにつきましては、寄附採納といった形で同時期に取得をしております。当初はこども課、この事業計画の部分というところでは一体的に計画していたものではございませんけれども、旧東北電力ビルの部分につきましては当初、屋内遊戯場の広さをいろいろ勘案していく中において、当初、本当に小さい面積の旧井上商会さんの部分だけで設計等も考えていたんですが、やはりそこでは面積が小さいといったところもございまして、途中、旧東北電力ビルのほうまで事業用地を広げて進めていこうというところで計画はされてきたというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

この建物というんでしょうかね、これらの建物は、1回でも利用されたことはあったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

議員のおっしゃる利用というのが、市が取得した後に何か別の利用でということであれば、特に

別の形態で利用したということはないというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

そうですね、1回も利用されることがないということなんですね。令和3年のときの第3回定例会での一般質問の中で、田原洋子議員より、建物を活用できなかった場合、解体費用は幾らかかりますかとの問いに、市長答弁では、平成30年1月に物件調査した結果では、2棟で約7,500万円でありましたと答弁しております。

今回、解体費の全体予算額に2億5,000万円を計上しており、今回で決まるのかなというふうに思っていたんですけども、ちょっと予想外の展開となってしまったと。これに対してどう思われるかということなんですけど、そこら辺いかがでしょうか。一応計算しますと3.3倍を超えていると。もう7年はたっちはおるんですけども、かなり高額になっているんだなというふうに思いますが、そこら辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

今回、これまで当初見ていました、想定しておりました金額よりもかなり上がってきているというところは確かなところでございます。この間、物価の高騰ですとか人件費の高騰、様々な要因があったというふうに捉えておりますけれども、何が特定の原因かというところはなかなか難しいところではございますが、市としては引き続き、ビルの解体につきましては市民要望が高いという認識でおりますので、取壊しができるように進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

この物件は、復興のまちづくり計画の中でにぎわいの拠点施設という候補のエリアにあった物件で、まちづくり計画にも位置づけた、今後の駅北の活性化につながるには、資する場所であろうといったことを総合的に判断したと、当時、部長の答弁がございました。耐震調査は実施はしていませんし、5万4,000円で買ったということなんです。旧東北電力ビルに関してはですね、東北電力が実施した不動産鑑定評価額、その中で更地にしたときの価格から建物の取壊し費用等を差し引いた金額で購入されたという、それが5万4,000円だったということで聞いております。今さら過去をひも解いても致し方ありませんけれども、大変悩ましいこととなっておるということでございます。

(2)でございます。予定価格の積算根拠は適正ということで、これはよくやられていることということなんですけども、これ自体のこの制度というんでしょうか、何ていうんですか、昨年度、5回実施する中で不調という形で終わって、庁舎内部でも検討して、新年度に入って事業者さんから参考見積り等を徴収したとあって、これ、一応根拠に出されたということなんですけども。この制度というんでしょうかね、それが本当に正しいものなのかどうかという、今度ちょっとそっちのほうへ行ってしまうんですけど、そこら辺のその算定の仕方というのがちょっと甘かったのか、そこら辺はどう捉えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

昨日の質問にもお答えさせていただいたんですけども、今回、6回目の部分については、性能発注方式ということで、事業者の方から提案をしていただくといったことで見積りを頂いております。

また、解体の工事自体、歩掛りというものが特にない工事になりますので、やはり専門業者の皆さんから見ていただいたものによって提案していただいたもの、それについては、私どもが見るよりは正しいものというふうに考えております。それをベースにですね、予算等も要求をさせていただいて、6回目の入札に臨んだということなんですけども、残念ながら不調に終わったという事態でございます。仕様の内容ですとか、見積りを出したときの内容、それを今、精査をしておりますので、そういったところを見直ししながら、今後どうするかを検討しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

現在の相場の価格ではないとすると、何なんだろうなって、単純というか純粹にそう思うんですけども、そこら辺はどう考えておりますでしょうか。今後また、先ほどたしか松田議員のときもお答えあったかと思うんですけど、今後この価格の変更とか、金額の上積みがあるのかということなんですけども、そこら辺はいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

価格については、見積りを頂いてますので、昨今の実勢の価格ということをつまえているものというふうにして、私ども入札をかけさせていただいております。

先ほども言いましたけども、私どもの見積りの仕様の内容ですとか、そういったところに行き違いがないのか、そういったところも見直す中で、次の入札、どういう形で臨むかというところは今検討しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

検討はよろしいんですけども、7回目の入札でこの事業者が決まるという保証はあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

なかなか確実に落ちるかどうか保証があるかという、なかなかお答えできませんけれども、しっかりと事業者が決まるようには検討を進めてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

とにかく検討していただければということに尽きるのかなと思います。

今後の事業者の範囲を広げるかという、3番目の問いでございますけれども、先ほど全国に広げているんだというようなことで理解はいたしました。あらゆる可能性を検討してもらう以外に方策はないのかというふうに思います。

4番目ですね、令和11年の4月までにこの施設整備を完了させるためには、今年の12月までに広場の整備概要を決定したいというのは理解はしますけれども、先月の29日のヒスイ王国館での市長との懇談会や、これから10月以降に13地区で同様に懇談会が行われる予定ですが、この29日の懇談会はどのように受け止めたかということなのですが、そこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

8月29日、ヒスイ王国館で開催されました説明会につきましては、70名ほどの方ご参加いただきまして、様々なご意見いただいたというふうに思っております。そもそも今回、施設整備、建物の建設を今広場、汎用的な広場という形に変えてというところでご説明、ご提案をさせていただいておりますが、そもそもその計画自体が全てなくなったというふうに思っていらっしゃってご発言をされている方も中にはいらっしゃったのかなというふうに思っておりまして、私どもこども課のほうといたしましては、これまで市長、替わられてからですね、議会のほうにも施設整備の方針4点について、議会、特別委員会等でもご説明させていただきましたし、7月にも広報いといがわ

のほうにも掲載をさせていただいて、市民周知を図っているところでもありますけれども、なかなかそういうところが、まだ期間も浅いということもあって浸透してないかなというところも感じたところでございます。

ただ、皆様方の懇談会でいただいたご意見といたしましては、やはりあその場所を何とか建物の解体も含めて、早急にしてもらいたいし、何とかにぎわいのあるいいものを造ってもらいたいというようなご意見だったかなというふうな捉えではございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

ご意見として、この道の駅であるとか、近距離にトイレであるとか、水遊び場があるというようなことは、ごもっともな話かなというふうには思います。ほかに美山公園にあるわんぱく広場のことを指して言ってるんだろうとは思いますが、そちらのほうをもっと手当てしたらというような声については、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先ほどの答弁と若干かぶる部分あるかもしれませんが、確かにそういった美山公園の整備といったところも、一方でしっかりと考えていかなければいけないというところはあるかと思っておりますが、今回の当該計画地での事業につきましては、駅北大火からの復興ということで、これまで計画を進めてきたといったところでございます。市のほうでは、その大きな方向性を変えない中で、今、建物建設といったところを汎用性のある広場という形に変えさせていただいておりますので、今ご提案の形で事業のほうは進めさせていただければというところで考えているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

そうすると、市民の皆さんからご意見を聞いて進めるとは言っても、何か口先だけで、何かあんまり変更するつもりはないのかななんて思ったりもするんですけど、そこら辺はそんなことはないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

また先ほどの答弁とちょっとかぶるんですが、これまで、大火からの復興という計画の中で、国の補助等も頂くという中で計画を進めてきている部分がございます。変えていける部分と変えれない部分といったところがあるかと思っておりますので、今ご提案をしておりますのは、市のほうで国の補助等も含めて、もともとの計画を大きく変えない範囲で修正をさせていただいてご提案をさせていただいているというふうに理解をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

関連はするんですけどこの屋内遊戯場を、市内の既存施設の活用を検討しているということだというふうに理解はしておるんですけども、そういう意味であれば、ある程度この既存施設を活用するというので、屋内遊戯場という部分では目的は達成されていくのかなと思います。

何度も同じことを言うんですけども、令和6年度の統計要覧、糸魚川市の統計要覧には、平成26年のときは人口が4万5,984人、出生数が286人、婚姻数が150組でした。令和5年になると3万9,057人、出生数が130人、婚姻件数が83組。令和7年の9月、今月の人口は3万7,293人です。補助金に縛られてしまうと、子供の自発的で自由な発想で遊べる広場を整備し、利活用していくしかないと思うんですね。自由に発想の転換ができないのではないかなというふうに思うんですけど、そこら辺どうなのでしょう、やっぱり補助金に頼ってしまうと、どうしてもそれしか、それ重複しますけど、子供の汎用性のある広場しかできないということになってしまうので、どうもそれで何となくちょっと、もう一工夫みたいなものが欲しいような気がするんですけど、そこら辺は改めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

国の補助というものを今前提として事業のほうを進めさせていただいている部分はございます。

ただ、その目的というところに関しましては、これまで市内で不足していた子育て世代の要望を実現するといったところも、併せて兼ね備えているものというふうに思っております、そういった国の補助等の有効な財源を活用しながら、市の行政課題として進めさせていただいているというふうに理解しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

汎用性のある広場を造った場合、何年間、広場にしておかなければならないものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

すいません、ちょっと正確なところはお答えできませんけれども、国の補助金を活用するという
中では、当面、その部分の利用はそのままという形になるかと思っております。改めて、例えば
近々にそういった用途変更等する場合には、やはり国のほうに補助金返還の協議というのをしな
ければならないというふうになると思っております。年数につきましては、ちょっと申し訳ござい
ません、できるものとかによっても違ってくるかと思っておりますので、この場ではお答えできま
せん。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

このまま何か入札もうまくいかなかったり、この利活用案が実施できなかった場合、仮の場合、
もしの場合ですね、この補助金等の返還、先ほどおっしゃってた、この補助金等の返還額の見込み
というのは幾らぐらいになるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

金曜日の利根川議員のご質問でもちょっとお答えしておりますけれども、返還という意味では、
今の汎用性のある広場、それも含めて事業を全てやらなかったというところになるかなというふう
に思っておりますが、現時点で、令和6年度末までに国庫補助金として確定済みで、4,700万
円ほどになっておりますので、そちらの分については返還しなければいけないというふうに思
っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

4億とか5億だったら大変だななんて思ったんですが、4,700万ぐらいなら、何とかやれな
いもんなのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

その金額を返す返さないというだけの話ではなく、やはり先ほど来申し上げておりますように、これ大火からの復興ということで、これまで計画をしてきた部分のその中にあるというふうに思っておりますので、なかなか簡単にそういった変更というのは難しいのではないかなというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○４番（渡辺栄一君）

あくまでもこれは、私の今の個人的な意見ですけれども、あまりこれに、広場にこだわる必要はないんじゃないかなというふうに思います。というのは、やっぱり時代とともに要望といいますか、そういったものが変わってきますので、それに縛られてしまうと、あの場所、私に言わせるとかなり一等地だろうというふうに思うんです。あそこはやはり働く場所、やっぱりビジネスマンが集まって、そうしないとこのまちはよくならないってわけじゃないんですけど、やはり人が来るということになれば、やっぱり働く場所があそこでは必要じゃないかなというふうに思いますので、４，７００万ぐらいであれば、どうでしょうね、行政サービスを削るわけにはいかないとは思いますが、少し乱暴な言い方かもしれませんが、人件費を削っていけるんじゃないか、ぐらいな程度に思うんですね。

昨年の１０月２５日の糸魚川市のおしらせばんですけれども、ここに市の人件費のことが書いてございます。歳出額が２６８億とあるんですけども、人件費が４３億４，３５５万円とありますので、そこから何か捻出できないもんかななんて単純に思ったりもしたんですけども、少し乱暴かもしれませんが、何かこう、それであればほかで稼ぐとか、工夫すれば、何とか４，０００万台ぐらいであれば、何とかなるんじゃないかななんて、非常に単純に思った次第なんですけども、改めてそこら辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

４，７００万円という金額が捻出できるかどうかという問題ではないというふうに思っております。先ほど申し上げましたように、渡辺議員おっしゃるようになりますね、今、角地の一番いい場所をどういう形で使うかというところを今後、利活用を多様にできるといったところを踏まえて、久保田市長のほうで汎用性のある広場という形で今ご提案をさせていただいているというふうに思っ

ておりますので、行政としてできる機能をあそこに、そのような形で設置させていただいて、また商店街は商店街でできる力を発揮していただいて、それぞれ複数分散型ということで、まちのにぎわいを盛り上げていければというところで考えているものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

ちょっと話が平行になりましたので、これに関してはここでやめておきます。

6番目でございます。協議・清算というのは行って、応じている最中だということで、いずれと
いいますか今後、議会報告をされるというような答弁でございました。相手のあることでございま
すので、12月議会までには公表できるようにお願いしたいと思えます。

子育て支援というのは必要と考えておりますけれども、必ずしも何かものを作るものではないと
いうふうに思っております。個人的には、教育の質を高めていってもらいたいというふうに思っ
ております。

子育てに関しては、以上、これでやめたいと思えます。

あと、当市の諸課題についてであります。

先ほど市長答弁で登山道の整備はということなんですけども、地元の方であるとか有志の方が整
備を行っているというような、そういった回答であったというふうに理解はしております。

昨年、テレビ放映で「にっぽん百低山」という番組で、戸倉山・新潟というような番組があった
というふうに聞いております。この番組を見た登山者が、全国から訪れているということで、戸倉
山の人気すごいというふうに聞いております。

戸倉山へ行くには、しろ池に向かわないと行けませんけれども、池の手間に色あせた案内板と、
何か大きな木の板がですね、昔は何かトンボだったとか、希少動物か何かが描いてたらしいんです
が、今は何もなく、そのまんまになっているというようなことと、あとミズバショウがある遊歩
道があるらしいんですけども、そこがかなり荒れているというようなことを聞きましたけれども、
そういったことはご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

戸倉山に向かう登山道といいますか遊歩道になりますか、今、議員ご指摘の2つの部分につい
ては、私どものほうで現状把握はできておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

ぜひこれからまた、行楽シーズンってわけじゃないですけど、秋のそういった登山の、そういっ

た時期でもございますので、ぜひ見ていただきたいなということですし、あそこにノートも置いてあるんですけども、ノートもですね、今年の8月まで、もう書く欄がないんですね。なので、そういったノートもぜひ新しく置いていただいて、なかなかよかったとか、いい、そんなに、評価されてる内容のことが書いてありましたので、そこをですね、ぜひちょっとノートだけなんですけど、ノートもそうですしね、あと登山口もちょっと分かりにくいというんでしょうかね、その矢印が非常に分かりにくかったというふうに思いますので、そこら辺もぜひ直していただけるのであれば、検討していただきたいと。

それと、私、今年7月に焼山登ったんですけども、山頂まではちょっと登れなかったんですけども、そこに大谷とか地獄谷というような箇所があるんですけども、やはり近年の集中豪雨等でですね、何か崩落してるらしくて、いろいろお願いはしてるんだけどなかなか直してくれないというような、そういった声も聞きましたので、そういったところが市の工事というんでしょうかね、崩壊防止工事というのができるのかどうか分かりませんが、そういった要請もございましたので、ぜひそこら辺も検討していただきたいというふうに思います。

それと、(2)のところで、市内のアンダーパスの箇所ですけども、26か所あるということなんですけども、今まで水没の事故等の報告というのはございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

アンダーパスの水没事故ということなんですけども、今年、昨年度はなかったんですけども、令和5年度の10月の豪雨でちょっとかなり雨が降りまして、そのとき、糸魚川地域と青海地域で1件ずつ、合計2件、被害の報告を受けております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

近年、短時間で雨量が大きい傾向となっておりまして。先週も上越市内でアンダーパスでの車の水没というのがございました。ご本人の不注意等もあろうかとは思いますが、保坂議員もエア遮断機の導入を昨年、第1回の定例会にも上げておるんですけども、そういったことは今後、導入というんでしょうか、考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

以前にエア遮断機、提案もいただいたことは承知しております。

ただ、今いろいろと精査させていただきまして、まずやっぱり迅速に現場に出向くということが

重要かと思います。それで、私どもですね、昨年度、冠水の頻度が高い箇所につきまして、冠水センサーということで、要は規定値になれば、メールが流れてくるということで、迅速な対応ができるということで導入させていただきましたので、今後も気象条件を先を読みながら、そういったものを駆使して、早急な対応に努めて、水没が今後起きないように臨みたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺栄一君）

実験なんかでは、水深が60センチまで冠水した道路を走ると、31メートル地点で車が停止するということです。事前にそういった遮断機、遮断する装置があれば、あることで安全が保てるというふうに思いますので、今後、検討をお願いしたいと思います。

以上で私の一般質問を終了いたします。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員の一般質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を2時40分といたします。

〈午後2時22分 休憩〉

〈午後2時39分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、加藤康太郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。〔3番 加藤康太郎君登壇〕

○3番（加藤康太郎君）

思い、志による創造的関係性を築き、共につくる共創参画社会を目指す、会派、志の縁、志縁の加藤康太郎です。

発言通告書に基づき、一般質問をさせていただきます。

1、時代の要請に対応した持続可能な次期「糸魚川市定員管理計画」について。

当市は、合併直後の平成17年度の「地方公共団体定員管理調査」において、普通会計職員ベースで、職員数が84人超過という状況にあり、「糸魚川市定員適正化計画」を策定し、合併10年後の平成27年度当初の職員数を577人と定め、職員の削減を進めた結果、平成23年度当初の職員数は、573人となり、4年前倒しで目標を達成し、平成24年3月に新たな定員適正化計画を策定し、定員の『抑制』を主要課題として推進してきました。

現在は、必要に応じた適正な職員数を確保した上で、効率的で質の高い行政サービスを実現し、

これまで培われてきた技術・ノウハウを『継承』し、さらには多様な人材を『活用』することなどにより、時代の要請に対応した職員体制を実現することを目的に、名称も「定員適正化」から「定員管理」とし、計画期間を、令和3年度から令和7年度（令和3年4月1日を基準日として、令和8年4月1日まで）の5か年とする「糸魚川市定員管理計画」を策定し、計画の最終年度となっています。

- (1) 10年先のまちづくりを見据え、次期「糸魚川市定員管理計画」（5か年）では、機能・価値創出へ軸足を移し、業務量・行政サービス（品質）・人材確保（育成）の3点を戦略的に同時最適化する必要があり、特に、この5年間は、退職ピークと地方公務員の段階的な定年引上げの余波が続く「転換期」であり、持続可能な行政運営のための最も重要な「再構築期間」とも言えます。次期「糸魚川市定員管理計画」の策定に着手すべきと考えます。所見を伺います。
- (2) 令和8年度以降も、退職者数が高水準で推移することが予測されます。さらに、人材獲得競争が激化する中で、若手職員や専門職（技術職）の人材確保（採用）をどのように強化、展開していくのか伺います。
- (3) 退職者の急増に伴う継承リスクへの対応として、これまで培われてきた技術・ノウハウを、どのように『継承』していくのか伺います。
- (4) 今後は、人数管理ではなく、業務量や繁忙期に応じた柔軟な配置（転換）が求められます。必要定員の算定方法や期間の配置方針について、市長のお考えを伺います。
- (5) 多様な人材を『活用』するには、庁内にとどまらず、「越境学習」（自分にとっての“ホーム”と“アウェー”を行き来することによる学び）が有効と考えます。今後、どのように、人材活用（育成）を図るのか伺います。
- (6) 限られた人的資源の中で、持続可能な地域社会を形成するためには、『地域DX』（行政サービスの効率化を図る「自治体DX」と、デジタルの力を活用し、地域課題の解決を図る「地域社会DX」）が必須と考えます。社会的動向、技術的動向等も踏まえ、「糸魚川市DX推進計画」（DX事業）の見直し・更新を図っていくのか伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

加藤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、人口減少が進む中で、多様化・複雑化する市民ニーズに対応するため、適正な人員管理計画を作成してまいります。

2点目につきましては、社会人及び専門職において通年募集を実施するなど、人材確保に積極的に取り組んでおりますが、新たな試験方法の導入や効果的な求人の方法なども検討してまいります。

3点目につきましては、まずはOJT、若手職員を育成していくことが必要であり、さらに役職定年者などが、若手職員の対応に当たる仕組みを検討しております。

4点目につきましては、多様化・複雑化する市民ニーズに、限られた職員で対応していくための

職員配置や組織の見直しを検討しております。

5点目につきましては、国や県との人事交流、民間企業への研修などを行っておりますが、地域活動への参加や学校ボランティア活動なども広義の人材育成と捉え、積極的な参画を職員に呼びかけております。

6点目につきましては、職員が減少する中でIT技術による業務の効率化は重要であると捉えており、状況を見て、DX推進計画を見直してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

まずは、糸魚川市定員管理計画に基づいてちょっとお話をお伺いしたいんですが、こちらの10ページのほうにですね、社会情勢の著しい変化、人事制度の大きな変化があった場合などは、必要に応じた内容を見直すとあります。こちら、先ほど質問の1回目のときもさせていただきましたが、定年引上げ制というのはかなり重要な人事制度の大きな変化ではないかという中で、庁内ではもちろん検討はされてると思うんですが、本来この計画をしっかりと見直し、改定して、なおかつそれに該当する職員の方たちに、まずこれを理解していただいて、自分たちのキャリアプランとか、その延長になった段階で自分たちがどういったものをしていくとか、そういったものを理解した上でやっていかなきゃいけないですし、また、今後60歳以上の方が、今度職員としている中で、今後どういった、今までにない中で運営していくわけなんで、そういったところをしっかりと皆さん理解と共有と議論とか、また、本人の思いとかもありますので、そういった部分で、本来は令和4年の12月の議会で承認されて、令和5年の4月から、たしか執行、定員の引上げされたと思うんですが、そうすると、1年ぐらい運用して、令和6年7月ぐらいにそこで1回見直しの改定とか、そういった議論をしっかりと向かうべきではなかったかなとは思いますが、その点についてはどういう今お考えでいらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今、加藤議員が言われるように、いろんな社会の動きが変わる中で、職員の意識改革、その定員の人数、人数というところも同じですけども、大きく変わろうとしている中で、これから変わっていく社会をどうやって乗り切っていくかというところは、本当に大きい課題だと思います。今、職員の定員管理計画、これ令和7年度までとなっております。この後、数値的なものをまた見直しをして、かけていきますけれども、単純なその数字だけの見直しではなくて、本当にその職員がどういう意識を持って仕事に当たっていくかというところもしっかり確認をしながら、取り組んでいかなければいけないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

まず、また元へ戻りますと、こちら、今まで定員適正化というところで削減・抑制というところで、やっぱり合併の光と影ではないんですが、公共施設もそうなんですが、やっぱり今の人事の年齢のばらつきとか、そういった部分もやっぱり合併の余波というかに応じて、結局、削減しなくてはいけないので、退職者が出るまで新規採用をずっと減らしてきた結果、今のような構造になっている部分があると思います。

そういった中で、定員管理に踏み込んで適正な確保していくというところでは変わったというところでは評価はしたいと思うんですが、でも実際見てみると、目標に対してずっと下回っている状態ですし、やはり私たちも数字を見ると、その数字より低いほうが人件費も下がっていいと思うんですが、本来の趣旨からいくと、逆に目標を上限とするって書いてあるんで、ちょっとこれ直したほうがいいかなと思うんですが、その目標を多少上回っていかないと、例えば今職員の育児休業を取ったり病気休暇とかも可能性もありますし、さらに行政需要もあらゆる拡充している中で、逆に定員を増員していかなければ持続可能な行政とよりよいサービスは提供できないのではないかと考えるんですが、その点について、まず今、最終年度に入った定員管理計画について、今の動向と今の点について、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

確かに今、市民ニーズが非常に多様化していて、いろんな業務が増えてきております。

一方、例えばICT技術を駆使して単純にできるようなところは機械にお願いするとか、あるいは外部のほうに委託していくというところの考え方も入れながら、それで適正な人数をどうしていけばいいかというところを詰めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

そういったところもいいですが、そうするとやっぱり人数がどんどん少なくなってしまうんで、やっぱりあと持続可能性と考えると、やっぱりある程度の年代が同じぐらいの人数で、ずっとある程度循環していく形にしないと、その時点では適正化なんだけど、それが5年、10年たって、そのピークの人たちが一気に退職されると行政が回らなくなるというところがあるので、ぜひそういった観点でしっかりと進めていただきたいと思います。結局、正職が、採用が足りないというところ

ろで、結局、会計年度任用職員で補充せざるを得ない現状があると思います。そういった中で、民間委託で減らしたりして、何とか減らす方向だと思うんです。それでも、それを抜いて考えると、会計年度任用職員が増えてる状態だと思いますので、場合によっては本人のご希望もあるんですが、まずは会計年度任用職員の方を正職化していくとか、そういった形にして持続可能性で市の行政に携わって、そのスキルも含めてですね、責任も含めて、していくかという部分を一つ考えとしてはあるのではないかと思います、会計年度任用職員に対する考え方について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

議員言われるように、確かに今、会計年度任用職員が不足する正職員の部分の業務を担っているところもあります。

一方、一般補助ということで入っている方もいらっしゃいます。どのような業務で、本当にどのような人数が必要なのかというところを考えた上で、会計年度任用職員の方の今、正職化というふうな話もされましたけれども、社会人枠としての募集もしておりますので、そういうところで見直しをかけていかなければいけないかなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

これ、令和2年4月より運用開始された制度で、今後も正規職員と併せた総合的な経営資源状況に応じた定員管理を行っていくと、こちらに書いてありますので、ぜひそういった観点でしっかりと会計年度任用職員についてもしっかりと踏まえてしていただきたいと思います。

ちょっと1点課題が、任用の必要性については引き続き年度ごと、所属ごとに判断していくこととしますと書いてあるんですね。そうすると、その年度だけ、例えば所属箇所が人数これだけくれとか、そうなると、本来の定員管理計画ではないような状態で、結局、会計年度任用職員が増えてしまったり、本来の全体の最適化の中で進まないと思いますので、この点についてはちょっとこの文言もしっかりと次回は考えて、経営資源状況に応じて定員管理を行っていくということなので、そういった年度ごと、所属ごとではなく、しっかりとした大枠の中で進めていただきたいと思います。

続いて、4ページになるんですが、こちらに現状分析であるんですが、大体45歳から51歳ぐらいがもうピークで、もう27人とか30人とか、20人近くその世代がボリュームゾーン大きいですね、ただ、これ今回、定年延長になったのはいいんですが、その人たち、あともう一個課題があって、今、定年延長してから2年に1回なんで、定年するときは2年に一度で、その2年間の退職者が一度に出るので、そうするとその採用人数を同じに取ってると、またバランスが崩れてしまうので、やっぱり年度計画等を踏まえた採用計画をしつつ、なおかつ、この厳しい状況でなかなか

か集まらない状況で、これをしていかななくてはいけないので、そういった現状分析を踏まえてしっかりと、もちろん検討して頑張ってもらいたいと思うんですが、その点踏まえて、ちゃんと現状認識と今後の課題を考えているのかと、今後しっかりと次回の次期計画で反映していくのかお伺いをいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今ほど議員が言われるように、定年が2年になりますけれども、採用については、ばらつきにならないように毎年ちゃんと取っていくというふうな計画でおります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

ある意味、年によっては前倒しになるんで、そういう意味で人数がやっぱり目標人員より、やっぱり大きくなる年も出てくると思いますので、やっぱりでもそれはなぜかというところをしっかりと市民の方に理解してもらって、ただ人数が目標数値に沿っていればいいということではなくて、中長期を見た中で、もちろん下回ってるときもあれば、あえて上回った中ですね、そういったものを担保しているというところで伝えていかないと、今過去、皆さん発表、毎年いただいているホームページとか、おしらせばんも見てる人たちが、今見るとやっぱり人件費と人が下がればいいみたいなのところの、やっぱり考えになってしまうので、そこはしっかりと伝えて理解していただかないと、本当少なければ今後、本当に行政立ち行かなくなるという危機感を持って、しっかりと進めていただきたいと思います。

また、5ページの人件費の推移なんですけど、今たしか平均年齢が四十何歳ぐらいですかね、そういった関係で平均年齢がどんどん上がっていくと、基本職員の人の給与は、等級とか年数とかで上がっていくので、今のところは人件費、賃金、併せた中では微減というか横ばいという中なんですけど、今後は反転して人件費が多くなっていくと、経常収支比率が高まって、新しい事業ができなくなってくるというような危惧をしているんですが、その点は、人件費の推移の動向は、しっかりと見てもらっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今まだ次期の計画を立てるに当たっては、そういうものもしっかり含めて、人件費のほうの積算もしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

やっぱり必要な、ある程度また優秀な方を募集するにはですね、ある程度のやっぱり初任給上げていったりとか、人件費も確保していかななくてはいけないので、下がればいいってことではなくて、やっぱりその職能に応じたしっかりとした給与を与えるような体系にしていかないと、やっぱり持続可能なところにもつながらないので、その総枠があるからもう上げられませんということではなくて、場合によっては、その部分はしっかりと理解を得て、確保する中で進めていくということも大事だと思いますので、ぜひお願いをいたします。

あと、現在ですね、令和7年4月1日の目標人数が505人、うち、普通会計が449人なんです。現状、令和7年の4月1日の実際の数、もし分かれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今年度、当初4月1日現在、職員数は477人で、28人ほど計画より少ない数となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

そうすると、かなり現場の方に負担がかかっているという理解で、後ほどまたDXのほうで、また、つなげていきたいと思いますが、今、確認いたしました。

そういった中で、今言ったとおり、平均が大体43.67とか44歳ぐらいで、多分、微減・微増していく中で、さらに定年延長になっていくので、もうそうすると平均年齢が50歳ぐらいの、通常、会社でいくとかなりやっぱり魅力のあるというところと、やっぱり新しい動きとか対応していくには厳しいのではないかとということで、この平均年齢もやっぱりある程度下げていくとか、ある程度平準化していくというのが大事だと思いますので、ぜひ検討いただきたいと思います。これも実際、今の令和7年4月1日の505人って、定年延長がない場合の目標人数なんで、本来、今もう定年延長、まだ1年ばかりですかね、進んだのが。そういった中では、本来、目標人数は、多分増えてくると思うんですが、その辺ちょっと積算してるかどうか分からないんですが、定年延長が実際、もう令和5年4月にあった場合の、4月1日の目標職員数みたいなのは、庁内で確認してるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

定年延長に伴う職員の人数構成というのは確認しておりますけれども、やはりこの計画のときは、やはりその数は反映されていませんので、今のように足りていないというのは、より足りていないということになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

せっかくそういうところが大事なんで、やっぱり共有化してもらわないと、その部分でおしらせばんでも広報したり、現場の人たちは、みんなそれで理解をしてるんで。でも実際はもっと負担がかかってるし、職員体制が厳しいという危機感を持ってないとあれですし、逆にね、若手の方をです、この構成、現状を見て、自分たちで何とかしなくてはいけないということで、インスタグラムで活動したり、いろいろしてもらってるんですが、本来これは、市長はじめ、理事者とかその担当、ここにいらっしゃる皆さんが、やっぱり真剣にやって、そういう心配をさせないで、自分たちの本来の、何ですかね、職責に全うできるような環境をつくるべきだと思うんで、私たちも評価、敬意を表しているんですが、やっぱりそういう心配のないような体制にしていくという責務がありますので、ぜひその観点をしっかりと持っていただきたいと思います。

続きまして、紹介ということなんですが、ちょうど胎内市が令和6年度から14年ということで、定員管理を変更しております。また後ほど参考にさせていただきたいんですが、やっぱりここは令和14年に定年延長が完了すると。それを踏まえて5か年計画じゃなくて、やっぱり9年の計画を持って、この6年から9年の計画を持って、それに対応した定員管理計画をつくってるところはすばらしいと思うんですが、次期計画に関して、また5か年でやるつもりなのか。そうすると、まだ制度の途中で実態が見えない本来の定年65年生の中での定員管理計画にならないので、やっぱり5年スパンはいいんですけど、やっぱり10年、20年見た中では厳しいと思うんで、この胎内市のように、定年延長制度完了を目指した中での定員管理計画を組むべきではないかなと思うんですが、その点、お考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

やはり定員の管理計画には、中長期的な視点、また逆に、短い視点というのにも必要なかなと思ってますので、いろんなほかの市町村も参考にしながら、年数とか、あとその視点というのを整理していきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

計画ですから5年でもいいんですけど、しっかりと完了を、またその後の5年間ぐらい踏まえた、しっかりと中でやっぱり計画をつくっていただきたいんで、その点はしっかりと踏まえてやっていただきたいと思います。

あとですね、燕市がちょうど令和7年度の、これはもうタイミングがちょうど改定というところで進めているんですが、ここ60歳以上の職員の人が入るということで、ただ60歳以上になるとやっぱり、今までフルの業務ができるということではないというところで、職員カウント数を0.7でカウントするそうなんですけど、今、実際60歳以上の方がいるのかと、そのカウントするときには1でカウントするのか、今後、0.7で見ていくのかという点について、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

60歳以上の職員のカウントについては、1でカウントしていきたいものです。

ただ、人件費の積算に当たっては安くなるというところで、そこで何割かを減らした積算をする形になると思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

これ見ると、やっぱり60歳になると、給与が0.7掛けというか、7割になる制度のようなんでね、またそういった部分で、場合によっては逆に、もう退職するという選択をすることも必要ですし、また、この定年引上げ制に関しては、必ず60歳前には本人の意思確認をしっかりと取って、たしか3つの制度が、今後、併用をしていくと思うんですが、3つの再任用制度と時短延長制度とかあるんで、その3つの制度があるというところで、もし説明できればお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

現在、定年年齢は62歳となっております。60歳を超えますと役職定年ということになります。

今ちょうど過渡期というところで、それより上の職員の方も、それは暫定の再任用職員としておられますし、また、それが終わって会計年度としてお勤めされている方もいらっしゃいます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

この制度すごく複雑で、退職時に適用される定年年齢に応じて選択肢がすごく分かれてですね、60歳定年の場合には、先ほど言った暫定再任用と、あと61から64歳定年に該当する方は、定年年齢まで勤務して暫定再任用するパターンと、定年年齢で前まで勤務して定年前再任用短時間勤務をしてから暫定再任用するとか65歳定年になりますと、定年年齢まで勤務するか、または定年前再任用短時間勤務ということで、結構、制度に難しいところがありますので、しっかりと、これ職員の方に理解してもらった中で、やっぱり退職に当たって退職金の計算の仕方もすごく難しいので、やっぱり皆さんのキャリアプランというかその時点に応じて、損得ではないですけど、どういったパターンが一番いいとか、自分たちのライフプランに合わせて考えるところがあると思うんで、そういったところは、この計画だけつくればいいということではなくて、職員一人一人のライフプランとか、そういった、今後もまだまだ頑張れるので、自分の才能を生かしたいというところでこういった制度があるので、該当する方はこういった今後、60歳前に急に言われてもやっぱり駄目だと思うので、これからもう、少なくとも40歳代ぐらいの方には、もう皆さんこの制度をしっかりと理解した中で進めるということで、しっかりと進めていただければと思います。

それでは、今、1番のほうは、以上で終わりたいと思います。

続いて、（2）のほうですね、採用広報で、来年の4月募集で採用状況を見ると、やっぱり技術職の応募がゼロという中で、また、定員に対する募集もやっぱり足りてないという状況が続いているんですが、今後、採用広報として具体的にどういうアクションを起こしていくのか、お伺いをいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

技術職の募集は、なかなか厳しいところがございます。通年募集をしたり、あるいは職員の動画でPRしたり、また、大学等を回らせていただいております。お願いをしたりしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

今後はですね、やっぱりもう民間と同じような形でマーケティングとか、そういったところをし

っかりとして、先ほどムービーというところもありますが、神奈川県ではちゃんとムービーでそういう県の土木とか技術職を中心にムービーして、しっかりとユーチューブチャンネルの下にホームページとか、人事課のツイッターアカウントとか、さらに人事課に問い合わせるフォームが一体化となって、しっかりとその動画を見れば、もうその下を見れば応募できるというか、すぐ問い合わせできるような形で進んでいますし、ちょっと前の事例になりますけど、奈良県の生駒市では、すごくユニークなポスターだったり、毎回全ての説明会に何か市長が出られたり、そういった中でやっていくことによって応募数が4倍になったという事例もあります。

やっぱりそういった中で、何かやっぱり手を打っていかなかったり、そういった、おっと気を引くようなところがないと、なかなかやっぱり来てもらえないので、今後そういった広報戦略というか、そういうのをしっかりとやっぱり既存のものではなくて敷かなきゃいけないので、しっかりとそういった人事と広報が連携するとか、あと、キーワードというかそういった部分の言語化ですよ、ね、糸魚川で働くならみたいなどころでしっかりと出したり、しっかりと糸魚川がどういったところなのでコンセプトで、こういった中で一緒にしていきたいとか、それを踏まえて、こういったコンテンツの、ただ動画で流せばいいということではなくて、その中身についてもしっかりと検討をされたり、あとPV数とか応募数とか、そういったのをしっかりと反応しながら、SNSもいろいろあるので、インスタがいいのかユーチューブがいいのかといろいろな部分でしっかりとそういった広報戦略を練る中でやっていかないと、やっぱり今の現状でいくと、なかなか厳しい状況が続きますので、ぜひしっかりと広報戦略をしていって、優秀な人材を糸魚川のために、また採用していただければと思います。

続いて、退職者の急増に伴う継承リスクということで、当市では、糸魚川市職員人材育成実施計画とかあります。先ほど言ったんですが、やはり個人個人のキャリアパスというか、こういった方向で将来いくのかという部分が大事になってくると思うんですが、そういった当市におけるその何かね、過去の職歴のほうで、今まで何やったかを把握されてると思うんですが、将来、自分としてはどんなキャリア構成をしていく中で、定年までというか、しっかりとするというような、そういったキャリアライフプランみたいな、研修とかそういう作成する時間はしっかり取ってるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

どちらかというと、今まで蓄積したものを記録していくというところはしっかりしておりますが、自分が将来どういうところに向かいたいかというところの視点というのは、あまりこれまでありませんでした。ですので、今ほどの議員のほうからの事例等も通して、これからの職員像みたいなものは、職員が自分の意識の中で、こういう形で向かっていきたい、こういう先輩のようになっていきたいというものがはっきり分かるような、そういう仕組みというのもつくってまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

キャリアパスと調べますと、目標とする役職や立場など到達するために、必要なスキルや経験などを示した道筋のことを指して、キャリアパス制度を組織内に導入することによって、市職員の成長を導き、組織の生産性を向上させて、なおかつ定着率を高めたいときに有効であるということで、民間企業では取り入れられているようですので、その辺も研究をしっかりとさせていただいて、この話が先ほどの定年延長の、実際、皆さんそれぞれ選択権があるので、60歳、逆に早期退職の55歳で辞めるとか、そういった部分を含めていろいろあると思いますので、そういったところをしっかりと聞く中で、そうすると定員管理計画でも、ある程度この年に何人、退職、辞められるってことが把握できると、その次の年に採用というので、たしか定員管理で見ると、前年の5月ぐらいに退職されますかどうか聞いて、退職者の数を把握して、新規採用募集を決めますということになると、本来、採用も今、前倒しにしていかなきゃいけなかったり、そうすると、そのパターンでやっぱり間に合わなくなるので、そういった観点からもしっかりとトータルで考えて、その都度都度、募集するのではなくて、ちゃんと前倒しと計画的な部分でしていくという観点でしっかりと進めていただきたいと思います。

続いて、4番ですね、今後は人数管理ではなく業務が繁忙期、やっぱり各課によって忙しい時期とか、やっぱりそれぞれ違うと思いますので、そうすると皆さん今さっき言った、負荷がかかっている状態なんで、基本忙しいとは思いますが、やっぱりそこをしっかりと繁忙期と業務量をしっかりと把握した中で人員配置するのと、やっぱり人事異動って異動なんで、そこでフィックスしてしまうと、応援体制で見ると、部である程度応援するというのはあるんですが、やっぱりその人のキャリアとか若手を育成するのに、もう検討して、ある程度分かるので、この時期ではここの部署を勉強してもらいたいので、普通だと10年で3か所ぐらい回ればよいということではなくて、もう短期で覚えてもらうために意図的にその応援体制のところの部署に入ってもらおうとか、やっぱりそういった体制が必要だと思いますし、今度DXも入ってくると、今までのニーズとまた変わってきますので、そういった必要な人数の算定方法とか、あと期間ですね、先ほど1年に1回じゃなくて、例えば場合によっては業務によっては半年に1回異動したりとか、そういったことも考えられると思うんですが、その点についてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今のところの考え方で、短期に異動というところは、考えとすれば、現在はありませんけれども、今行政事務、1つの課で完結する事務というのがだんだん少なくなってきた、もういろんな課で複数がチームとなって対応していかなければならないというのが増えているように思います。

また、どういう形がいいのかというのは、また内部のほうで、異動の短期のものも含めてどうい

う組織が動きやすいのかというのは検討してまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

これはもう参考資料になるかどうかはあれなんです、前の明石市長の泉さんは、年間27回人事異動、普通、皆さん年1回するとこ27回以上してたということで、適材適所を人事方針に掲げて、それまでの役所文化の年功序列とか、部長、課長になれてない職員も適用に応じて上げたりですね、もちろん反発もあったんですが、でもこれでできたってことは、制度としてできないことはないはずなので、そういった部分で年に二十数回もする必要はないんですが、やっぱり時と場合によっては年1回の人事異動にこだわらず、やっぱりそういった観点も踏まえて、そこはやっぱり市長サイドの、先ほどの組織の再編の部分、今後、これから調整というか、チャレンジされると思うんですが、やっぱりそういうことも踏まえて、ぜひ人事異動というところも検討いただきたいと思いますが、市長のほう、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

現在、組織の再編については、今、総務課等とやっているところであります。

私の経験上から言いますと、今、加藤議員がおっしゃられた、やっぱりこれから自分の業務を超えていかなきゃならない。人を増やすことじゃなくて、業務を越境といいますか、やっていかなきゃいけない。一例としまして、私、海洋高校時代、総務省の加速化交付金事業6,500万円獲得する上で、実をいうと県庁と市の職員と学校のほうの三者で申請を検討したんですね。見事当たりました。やっぱりそれぞれの得意分野のノウハウを生かして、その事業の採択に向けて仕事をしたと。当然、市役所で業務するわけですので、農林水産課から1人、県の教育委員会から1人というふうにして、皆さんで業務をこうやって、得意分野のところで業務をやっていただいて、採択されたと。そういう一例がございますので、今後もそういうふうな、自分の主な係・業務を越えた上で連携してやっていくということが、これから増えてくると思います。そういうふうなことが可能になるような再編を、今考えておるということでありますので、ご提言・ご意見については、真摯に向き合っていきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

ぜひもう糸魚川モデルも独自の国に準じた形にする必要ないと思いますので、やはり糸魚川が生

き残っていくためにやらなければいけないところです。ぜひ期待しておりますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

次、5番の越境学習と今提言、先ほどの越境という言葉もありますが、今後それがすごく大事になるので、今は基本的に自己学習とかオンラインとか1日研修のところでの研修が多いと思うんですが、今後はそういった、例えば糸魚川市だけじゃなくて、全国からそういった思いのある、担当しなきゃいけない人たちが集まって、他市の人たちも集まった研修の中で、それも1年間通して何月、何月でこうやっていくという研修はすごくいいと思うんです。

また、そういった越境をすることによってですね、人脈も広がりますし、やっぱりこの当市では少ない若手職員でも、そこに行けば、また同じ課題を持って活動している仲間ができて、いろんな情報交換ができたりとか、そういった部分でもすごく励みになるし、頑張れると思うんですが、今後の研修の在り方についてもそういった観点必要だと思うんですが、その点については、今の状態のOJT含めて、大事なことなんですけど、今の体制でそのままいくのか、ある程度刷新していくのか、お考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今オンラインでいろんな会議に参画できる機会も増えましたし、行かなくてもいろんな人と話ができるという、また手法も、私たち手に入ってるのかなと思います。もちろんいろいろ県や国の機関と人事交流をしたりとか、あるいは民間の企業に研修として、短期間ではありますけれども交流する事業は行っておりますが、いろんな機会、私、広い意味で人事異動も自分の勉強になるかと思っています。異動して、いろんな方と触れ合えることで、また次の仕事に役立ったというところもたくさんありますし、地域活動、またいろんな学校、PTAの活動とか、そういうのも広く人材の育成の事業だと思っておりますので、いろんな機会が職員が学ぶ体制というのは、どんどん積極的に考えていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

ちょうど私も8月5日に地域経営講座というところで、Menikenというところがやってる財政非常事態宣言からの復活ということで、裾野市長が来られたときに勉強会行ったんですが、そのMenikenがちょっと40万ぐらいするんですけど、年間ですね。ただ、1チーム3人から5人の市の職員から出してもらって、研修ではなくて実践研究の場で、チームでそのテーマを決めて、もう実践をします。それで、また全国の仲間が定期的にですね、大体2か月に1回ずつ集まって、なおかつ早稲田大学とも連携しながらしっかりとしていくというのがありましたので、これちょっと紹介していくんで、ぜひ、もしよければ見ていただいて、優秀な人材があれば、ぜひ成長の

機会になると思いますので、ご検討いただきたいと思います。

あと、続いて6番のDXのほうに入るんですが、やっぱり今の組織変革とDXは、もう切っても離せない状態になっております。そういった中で、今年の4月にCIO補佐官が就任されて大変期待しておるんですが、その点で、助言とか相談とか、そういった主な内容とか効果があれば、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

磯貝総務課長。〔総務課長 磯貝恭子君登壇〕

○総務課長（磯貝恭子君）

お答えします。

今、行政も職員不足、また地域も、恐らくいろんな役員の成り手不足というところで、DX、ICT機器に寄りたいところってどんどん増えてきていると思います。行政の中では、いろんな、例えば書かない窓口であるとか、来庁しなくても手続きができるというようなところについて、今、CIO補佐官からいろいろ助言をいただいたり進めておりますし、先日は、キントーンというアプリの勉強会もさせていただきました。なかなか、何が困ってどういうシステムができれば、みんながよくなるのかというところが、どういう形がいいのかというのは、まだ私ちょっとイメージが湧かない部分もあるんですけれども、そういうところをみんなで話し合って、地域が、まるごとDXという言葉も出ておりますけれども、そういう形で町がよくなればいいのかなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

そういった中で、最高情報責任者としては副市長がなられてるんですが、そういった意味で、市長は4月から就任された中で、そこはしっかりと連携と、この中身と今、計画5年の中の3年目ですけど、その辺の共有と今後について、またお話はしっかりとされていますでしょうか、副市長にお伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

CIA補佐官とは情報交換をさせていただいております。その中で、やはり職員は今までの仕事のやり方が正しいというふうに思って進めている部分があるんですが、実は他の目から見ると、もうちょっとこうやって効率化できるとかですね、そういった部分について、アドバイスをいただいたりしてます。

基本的には、職員でなければできない仕事をしっかり残して、外部の方ですかね、委託できるものについては委託するという考え方で進めていきたいというふうに思っております。そういったこ

とで補佐官のしっかり活用して、行政がよい方向に向かうようにしたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

加藤議員。

○3番（加藤康太郎君）

これ、まるごとDXのお話もありましたけど、これも行政事務のDXだけではなくて、やっぱり私たち市民の暮らしもそうですし、地域社会の区や公民館活動もそうですし、そういったところがしっかりとデジタル化していかないと、どこかにボトルネックがあると、結局その成果が生きてこないで、ぜひ庁内をしっかりとさせていただきたいんですが、そういった区や公民館等の、しっかりDXは進めていただきたいと思います。

あとですね、ちょうどこのDX化の計画はしっかりと見えていただきたいんですが、これに、21ページは、もう組織そのものの変革ということで、市長、これからされようということだと思うんですが、組織そのものの変革がなければ、サービスの本質的な変革は行えないって書いてあるんですね。やはりそういった意味では、副市長、まず、トップでしっかりとやっていただきたいですし、やっぱり今後の行政していくには、これを、ボトムアップもいいんです。やっぱり現場から出ると自分たちの業務の範囲を超えて、なかなかやっぱり改革的なところは難しいので、そこはやっぱり市長、副市長、理事者含めて、しっかりとすることが大事だと思っております。ぜひこのDX計画に基づいて、しっかりと糸魚川をよくしていただきたいと思います。

以上で一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で加藤議員の一般質問が終了いたしました。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変お疲れさまでした。

〈午後3時28分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員